

自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会報告書（平成 22 年度）

[第 1 分冊]

事業用自動車の交通事故の傾向分析

平成 23 年 6 月

国 土 交 通 省 自 動 車 交 通 局

自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会



自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会」委員 (順不同 敬称略)

座長	堀野 定雄	神奈川県 工学研究所 客員教授
委員	相川 春雄	社団法人日本バス協会 安全輸送委員会委員
"	竹津 久雄	社団法人全日本トラック協会 交通対策委員会委員
"	榎元 紀二郎	社団法人全国乗用自動車連合会 交通安全委員会委員
"	小野 古志郎	財団法人日本自動車研究所 技監 研究主幹 兼 財団法人交通事故総合分析センター 主任研究員
"	村田 善之	損害保険料率算出機構自賠責損害調査センター 損害調査部長
"	酒井 一博	財団法人労働科学研究所 所長
"	小島 公平 (清水 勝一)	独立行政法人自動車事故対策機構 理事 (事故防止担当)
"	下光 輝一	東京医科大学 主任教授 (医学博士)
"	関 政治	全日本交通運輸産業労働組合協議会 事務局長
"	栗原 浩	財団法人日弁連交通事故相談センター 常務理事
"	増井 潤	社団法人日本自動車整備振興会連合会 常務理事
"	杉浦 秀明	社団法人日本自動車工業会大型車部 会長
特別委員	小田切 優子	東京医科大学 講師
オブザーバー	山下 博	社団法人日本バス協会 技術部長
"	伊藤 勝利 (井手 廣久)	社団法人全日本トラック協会 交通 環境部長
"	小菅 孝嗣	社団法人全国乗用自動車連合会 常務理事
"	持田 勤	社団法人日本自動車工業会安全部会 交通事故分析分科会副分会長
"	岡野 俊豪	社団法人日本自動車工業会大型車部 バス分科会長
"	渡辺 一巳	財団法人交通事故総合分析センター研究部 研究第三課長
行政	警察庁交通局交通企画課 厚生労働省労働基準局 国土交通省道路局環境安全課道路交通安全対策室、大臣官房運輸安全監理官室、 自動車交通局旅客課、貨物課、保障課、技術企画課、整備課 安全政策課 (事務局)	

## 背景

交通事故の多くは、見かけ上運転者の運転操作ミスや交通違反等の人的要因によって発生しているため、第一義的には、運転者の教育・指導が肝要であるとされている。

しかし、事故の直接の原因が運転者であったとしても、その背景に運転操作を誤ったり、交通違反をせざるを得なかったりすることに繋がる要因・背景が潜んでいることが少なくない。特に、自動車運送事業用自動車（以下「事業用自動車」という）にあつては、運行を管理しているのは、運転者自身でなく、雇い主等であり、何らかの制約の中で運転業務を行っているのが通常であるため、事業者が運輸安全マネジメントにより事故を防止する取組みを推進するために、事故の原因を追及し改善策を検討する必要がある。

平成 11 年 6 月の運輸技術審議会の答申「安全と環境に配慮した今後の自動車交通政策のあり方について」には、「安全対策を効果的に実施するため、必要な分野について、特に詳細な分析、いわば事故の『解剖』を行うとともに、具体的なプログラムに沿って全国的な情報収集ネットワークを構築することが必要である。」と述べられており、具体的な手法として、運輸支局又は地方運輸局（以下「運輸支局等」という）が自ら事故事例を収集し、詳細な調査を実施するとともに、自動車交通及び安全解析に携わる関係専門家により、運輸支局等が収集した事故情報を詳細に分析し、再発防止を意図した交通安全対策に活かしていく必要があるとされている。

これらのことから、事業用自動車の事故について、事故の経過、運転者の状況、運行管理の状況、車両の状況等の情報を収集し、さらに、収集した事故情報を効果的に再発防止対策の立案に反映させるために、事故発生の要因及び背景を主に 4 つの要素（運転者面（Man）、車両面（Machine）、走行環境面（Media）、管理面（Management））の 4 M 側面に整理し、科学的な究明・分析を行うことを目的として、平成 11 年度から一部の地域でモデル的に開始した「自動車事故対策パイロット事業」を足がかりに、平成 13 年度から「自動車運送事業に係る交通事故要因分析事業」として実施しているところである。

## <目次>

1 . 事故全体の傾向 .....	1
2 . バスの事故 .....	12
2 - 1 . 乗合バスの事故 .....	14
2 - 2 . 貸切バスの事故 .....	26
3 . タクシーの事故 .....	33
4 . トラックの事故 .....	41
附録 . 事業用自動車の交通事故統計 (平成 21 年版)	

# 1. 事故全体の傾向

## (1) 交通事故件数全体の推移

平成 22 年中に全国で発生した交通事故の件数は 725,773 件であり、そのうち、事業用自動車は 51,061 件となっている。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン 2009（平成 21 年 3 月）」において、平成 30 年までの 10 年間で人身事故件数を半減（3 万件 / 年）、中間年である平成 25 年には 4 万 3 千件とする目標値が示されている。

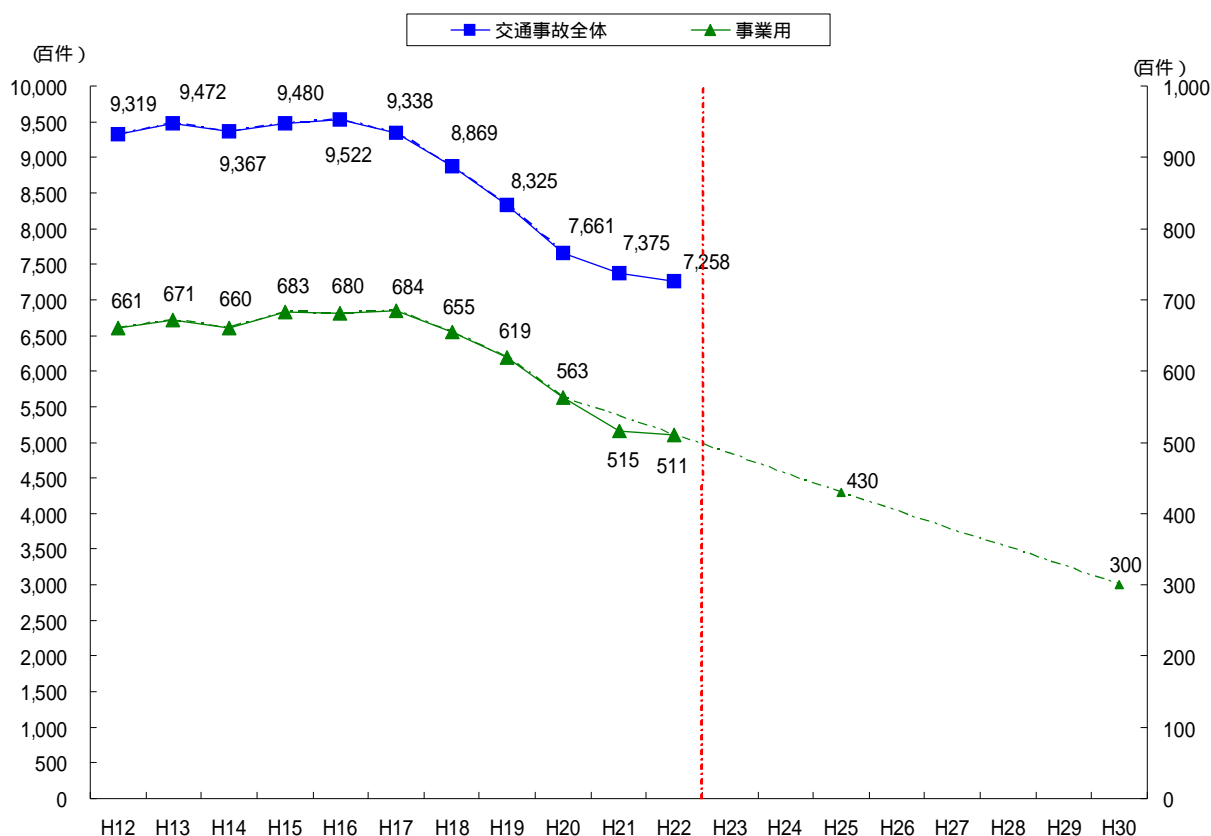


図 1 交通事故発生状況の推移

出典：警察庁「交通統計」  
 (財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 1 交通事故発生状況の推移

年	区分	発生件数	
		交通事故全体	事業用
H12		931,934	66,083
H13		947,169	67,128
H14		936,721	65,966
H15		947,993	68,321
H16		952,191	68,034
H17		933,828	68,409
H18		886,864	65,541
H19		832,454	61,873
H20		766,147	56,295
H21		737,474	51,536
H22		725,773	51,061

出典：警察庁「交通統計」  
 (財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (2) 交通事故における死者数の推移

平成 21 年中に全国で発生した交通事故の死者数は 4,914 人であり、そのうち、事業用自動車は 468 人となっている。

なお、平成 21 年 1 月に政府が掲げた、平成 20 年から平成 30 年の 10 年間に交通事故死者数を半減させ、2,500 人以下とする目標値を受けて、「事業用自動車総合安全プラン 2009」においても、同 10 年間で事業用自動車の死者数を半減させ、平成 30 年には 250 人/年とする目標値が示されている。

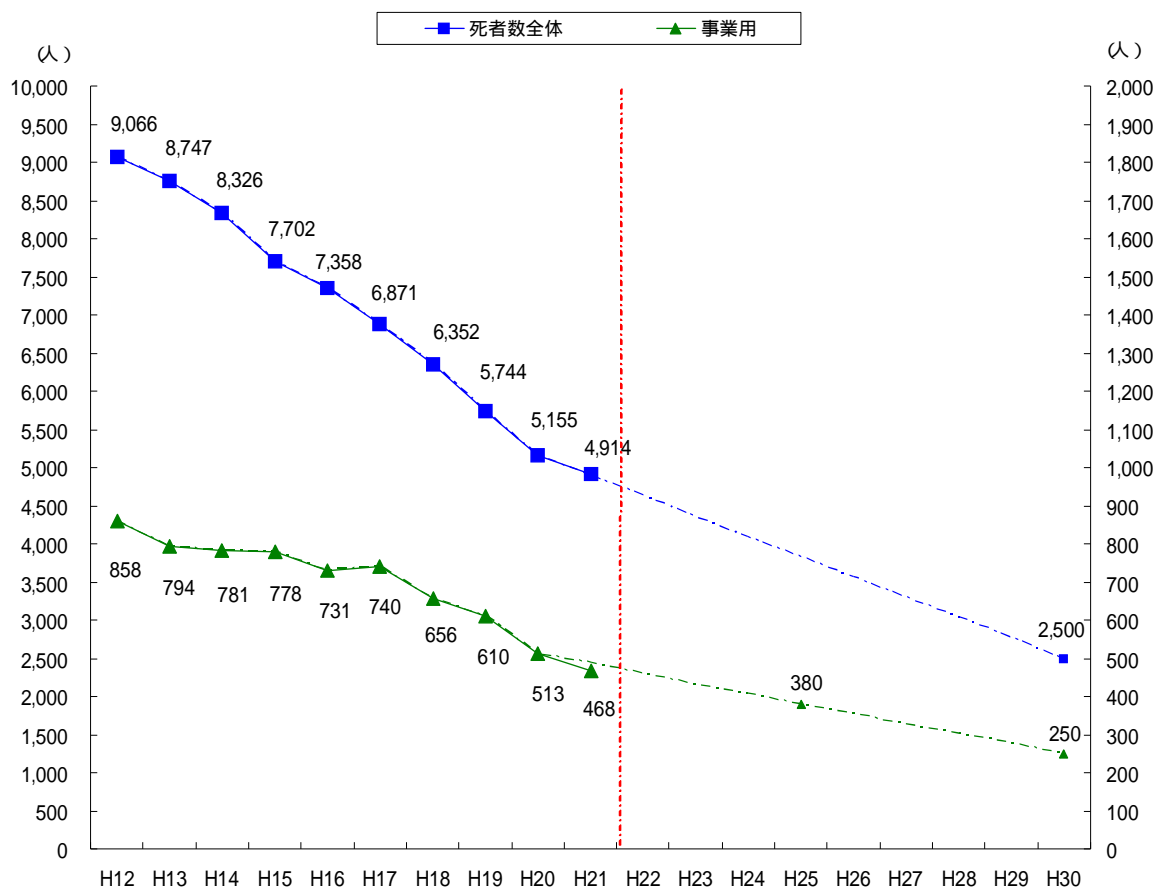


図 2 死者数の推移

出典：警察庁「交通統計」  
 (財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 2 死者数の推移

区分 年	発生件数	
	死者数全体	事業用
H12	9,066	858
H13	8,747	794
H14	8,326	781
H15	7,702	778
H16	7,358	731
H17	6,871	740
H18	6,352	656
H19	5,744	610
H20	5,155	513
H21	4,914	468

出典：警察庁「交通統計」  
 (財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 交通死亡事故件数の推移

平成22年中に全国で発生した交通死亡事故の件数は4,726人であり、そのうち、事業用自動車は469人となっている。

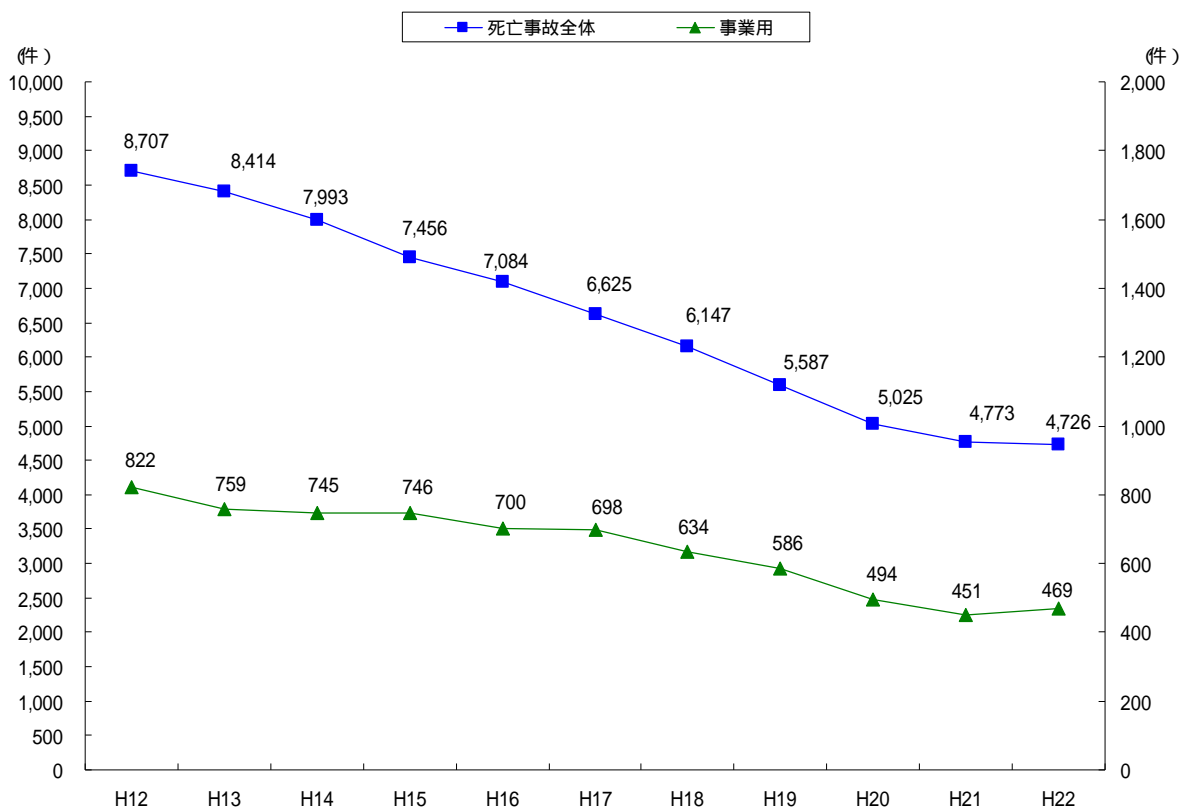


図3 交通死亡事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」  
(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表3 交通死亡事故件数の推移

区分 年	発生件数	
	死亡事故全体	事業用
H12	8,707	822
H13	8,414	759
H14	7,993	745
H15	7,456	746
H16	7,084	700
H17	6,625	698
H18	6,147	634
H19	5,587	586
H20	5,025	494
H21	4,773	451
H22	4,726	469

出典：警察庁「交通統計」  
(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



(4) 業態別交通事故発生件数の推移

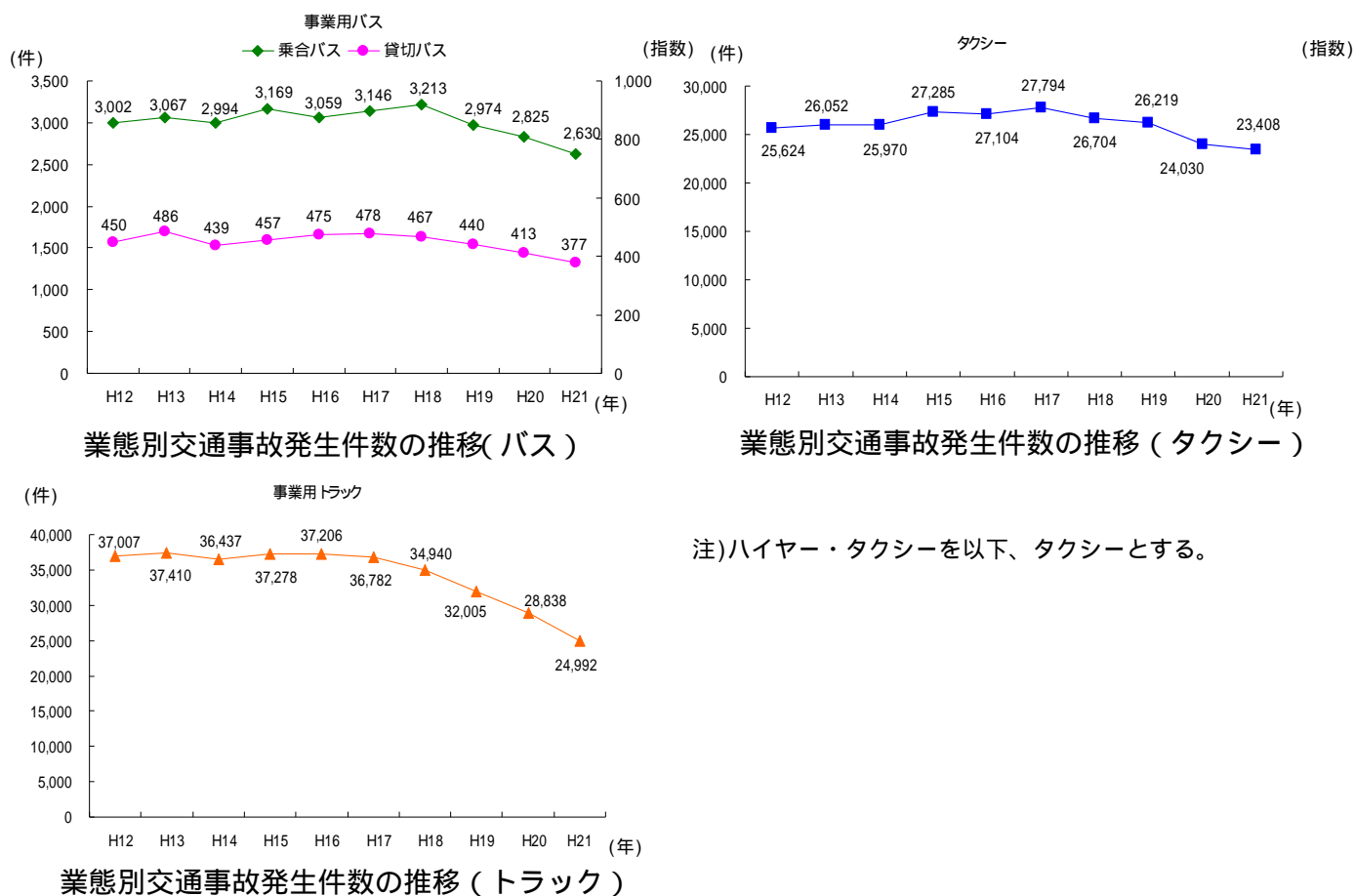


図4 業態別交通事故発生件数の推移  
 出典：警察庁「交通統計」  
 (財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表4 業態別交通事故発生状況の推移

区分	件数(件)						死者数(人)					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック
H12	3,452	3,002	450		25,624	37,007	20	17	3		43	795
H13	3,666	3,067	486	113	26,052	37,410	22	19	3	0	58	714
H14	3,559	2,994	439	126	25,970	36,437	19	10	8	1	56	706
H15	3,758	3,169	457	132	27,285	37,278	23	14	7	2	70	685
H16	3,724	3,059	475	190	27,104	37,206	29	18	10	1	46	656
H17	3,833	3,146	478	209	27,794	36,782	24	16	7	1	53	663
H18	3,897	3,213	467	217	26,704	34,940	26	16	9	1	49	581
H19	3,649	2,974	440	235	26,219	32,005	25	18	7	0	38	547
H20	3,427	2,825	413	189	24,030	28,838	13	8	4	1	50	450
H21	3,136	2,630	377	129	23,408	24,992	18	12	4	2	40	410

出典：警察庁「交通統計」  
 (財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 走行距離1億キロあたり業態別交通事故件数の推移

グラフから、タクシーと乗合バスの走行距離あたりの事故が多いことがわかるが、これは、これらの業態が市街地を走行する機会が多いことによると考えられる。他方、トラックと貸切バスの走行距離あたりの事故が少ないのは、走行距離に占める高速道路使用の割合が比較的高いことによると考えられる。

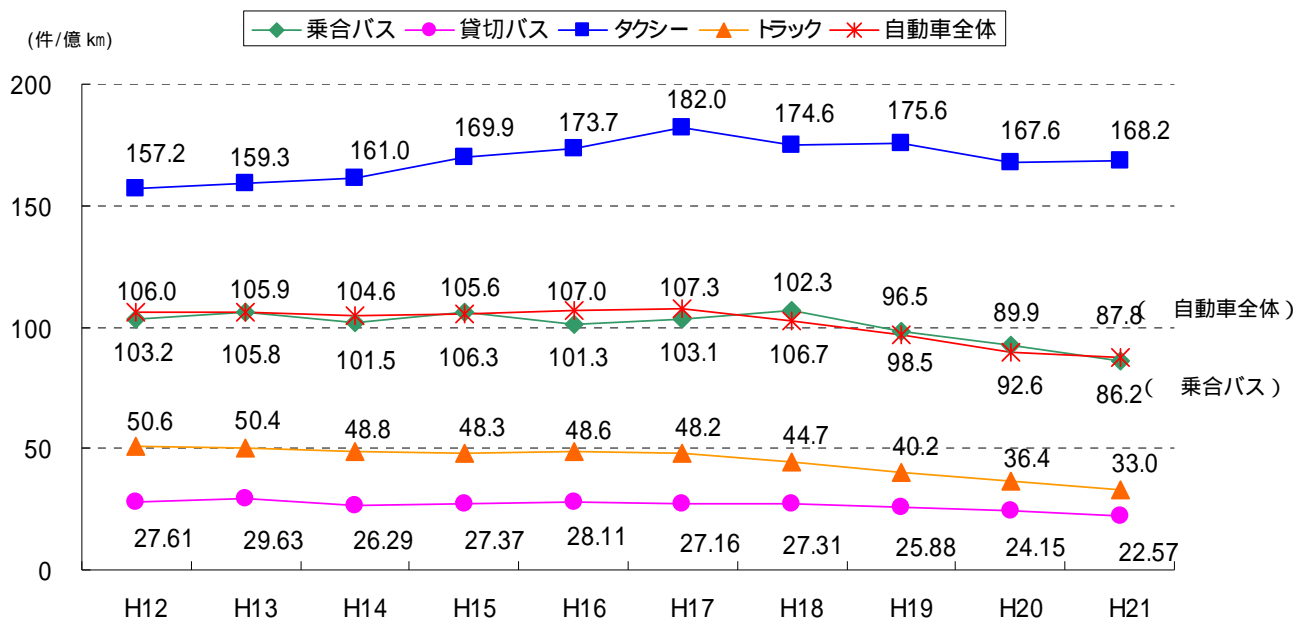


図5 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移(走行距離1億キロあたり)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

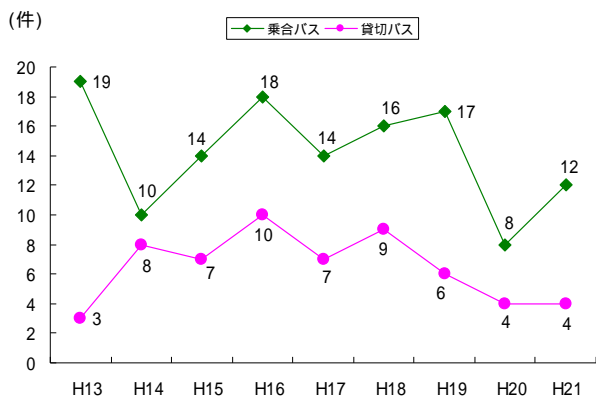
表5 業態別事故件数及び走行キロの推移

区分 年	事故件数(件)							走行キロ(億 km)					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	自動車全体	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車全体
H12	3,452	3,002	450		25,624	37,007	821,902	45.4	29.1	16.3	163.0	731.2	7,755.1
H13	3,666	3,067	486	113	26,052	37,410	837,875	45.4	29.0	16.4	163.6	742.9	7,910.2
H14	3,559	2,994	439	126	25,970	36,437	825,686	46.2	29.5	16.7	161.3	746.6	7,897.0
H15	3,758	3,169	457	132	27,285	37,278	838,206	46.5	29.8	16.7	160.6	771.8	7,939.8
H16	3,724	3,059	475	190	27,104	37,206	839,250	47.2	30.2	16.9	156.0	765.0	7,847.0
H17	3,833	3,146	478	209	27,794	36,782	823,868	48.1	30.5	17.6	152.7	762.6	7,681.0
H18	3,897	3,213	467	217	26,704	34,940	783,934	47.2	30.1	17.1	152.9	782.4	7,666.4
H19	3,649	2,974	440	235	26,219	32,005	734,320	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7,606.8
H20	3,427	2,825	413	189	24,030	28,838	676,064	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7,519.2
H21	3,136	2,630	377	129	23,408	24,992	654,151	47.1	30.5	16.7	139.2	756.9	7,452.1

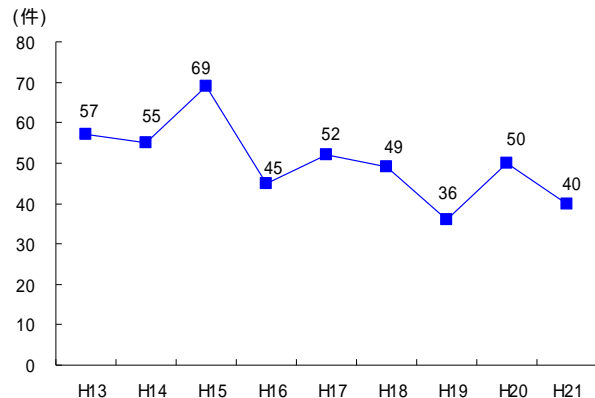
出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

自動車全体とは、事業用自動車に自家用自動車(バス、乗用車、トラック)を合わせたものをいう。

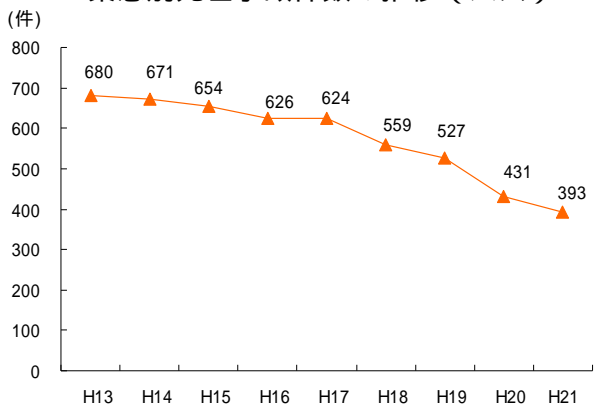
( 6 ) 業態別死亡事故件数の推移



業態別死亡事故件数の推移 (バス)



業態別死亡事故件数の推移 (タクシー)



業態別死亡事故件数の推移 (トラック)

図 6 事業用自動車の業態別死亡事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) 走行距離1億キロあたり業態別死亡事故件数の推移

トラックは自動車事故全体よりも走行距離あたりの死亡事故件数が多いが、その差は年々小さくなり、平成21年はほぼ同じとなっている。

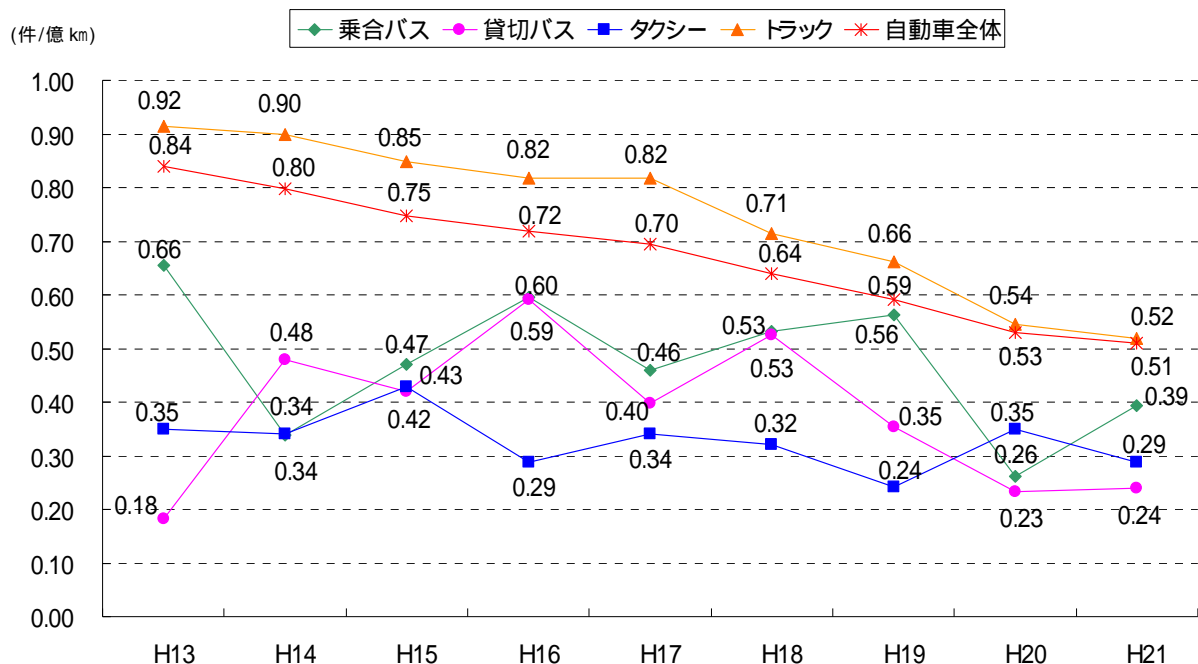


図7 事業用自動車の業態別死亡事故件数の推移(走行距離1億キロあたり)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

警察庁「交通統計」(自動車全体は各年11月末までの死亡事故数を使用)

表6 業態別死亡事故件数及び走行キロの推移

区分 年	死亡事故件数(件)							走行キロ(億km)					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	自動車全体	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車全体
H13	22	19	3	0	57	680	6,635	45.4	29.0	16.4	163.6	742.9	7,910.2
H14	19	10	8	1	55	671	6,302	46.2	29.5	16.7	161.3	746.6	7,897.0
H15	23	14	7	2	69	654	5,938	46.5	29.8	16.7	160.6	771.8	7,939.8
H16	29	18	10	1	45	626	5,639	47.2	30.2	16.9	156.0	765.0	7,847.0
H17	22	14	7	1	52	624	5,341	48.1	30.5	17.6	152.7	762.6	7,681.0
H18	26	16	9	1	49	559	4,905	47.2	30.1	17.1	152.9	782.4	7,666.4
H19	23	17	6	0	36	527	4,492	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7,606.8
H20	13	8	4	1	50	431	3,982	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7,519.2
H21	18	12	4	2	40	393	3,803	47.1	30.5	16.7	139.2	756.9	7,452.1

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

警察庁「交通統計」

自動車全体とは、事業用自動車に自家用自動車(バス、乗用車、トラック)を合わせたものをいう。

( 8 ) 業態別の運転者の飲酒運転による事故件数の推移

飲酒運転による事業用自動車の事故は、トラック、タクシーともに減少傾向にある。

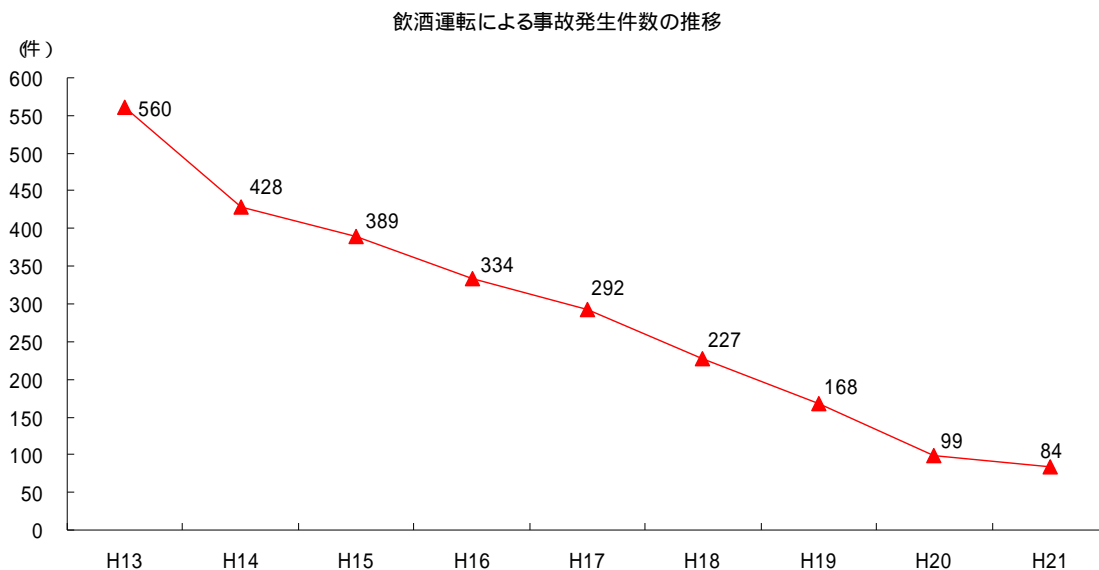
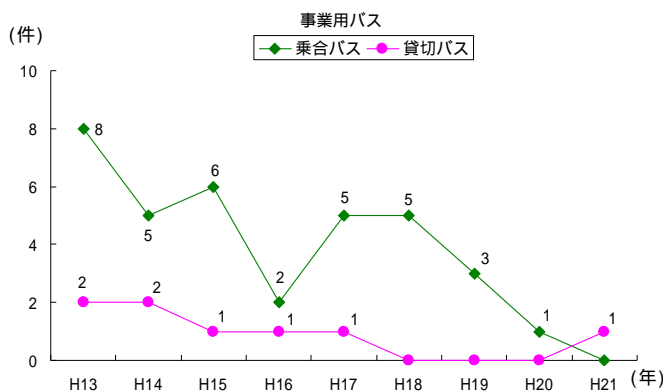
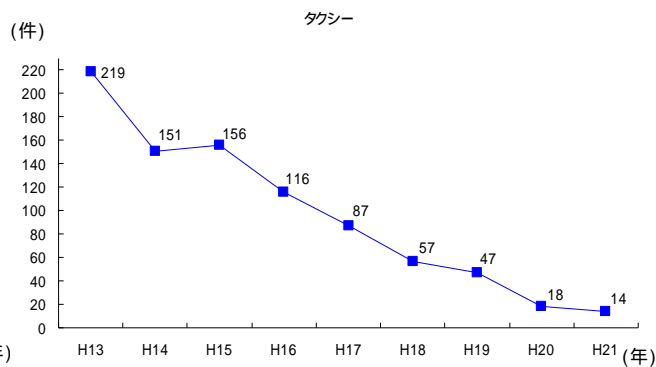


図 8 飲酒運転による交通事故発生件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

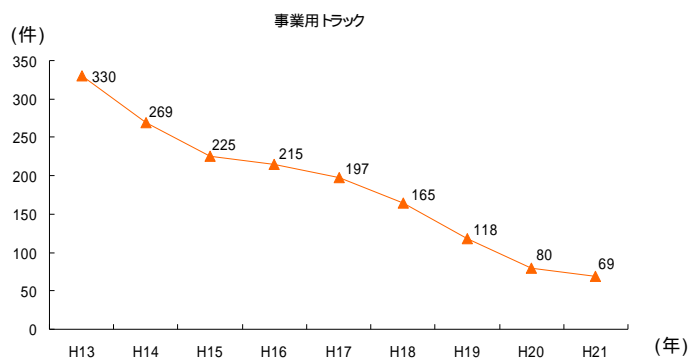


飲酒運転による交通事故発生件数（バス）



飲酒運転による交通事故発生件数（タクシー）

注)ハイヤー・タクシーを以下、タクシーとする。



飲酒運転による交通事故発生件数（トラック）

図 9 業態別飲酒運転による交通事故発生件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表7 業態別飲酒運転による交通事故発生状況の推移

区分 年	件数(件)						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
H13	11	8	2	1	219	330	560
H14	8	5	2	1	151	269	428
H15	8	6	1	1	156	225	389
H16	3	2	1	0	116	215	334
H17	8	5	1	2	87	197	292
H18	5	5	0	0	57	165	227
H19	3	3	0	0	47	118	168
H20	1	1	0	0	18	80	99
H21	1	0	1	0	14	69	84

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

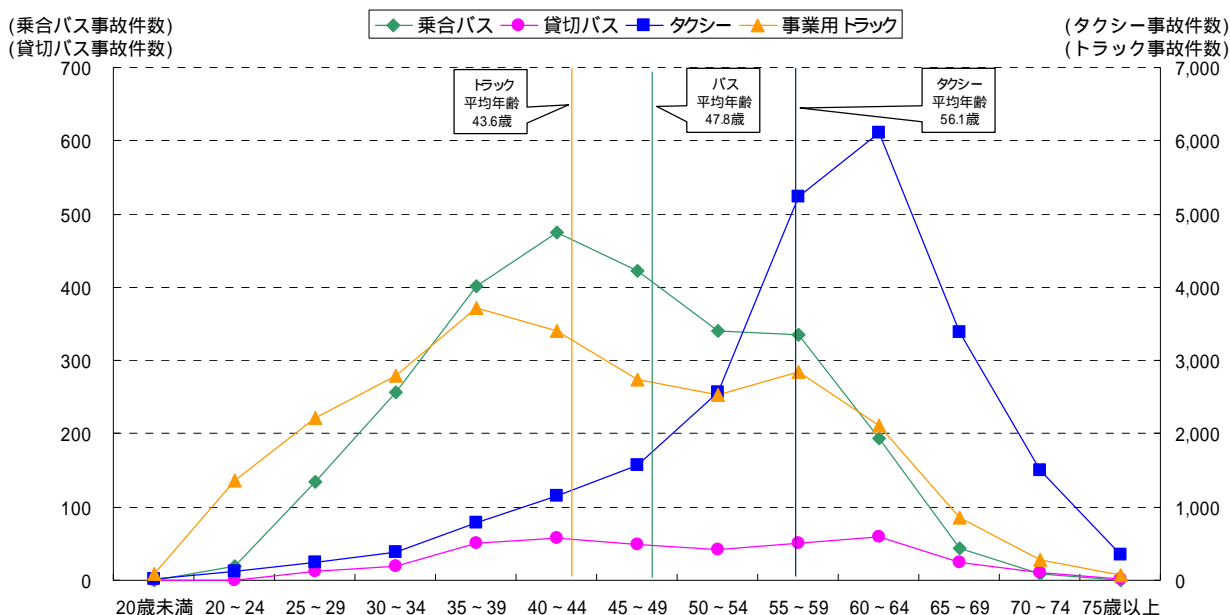
表8 業態別飲酒運転による死亡事故発生状況の推移

区分 年	死亡事故件数(件)					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック
H13	0	0	0	0	3	12
H14	1	1	0	0	0	18
H15	0	0	0	0	0	9
H16	0	0	0	0	0	16
H17	0	0	0	0	0	13
H18	0	0	0	0	0	9
H19	0	0	0	0	0	12
H20	0	0	0	0	0	1
H21	0	0	0	0	0	2

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 業態別運転者年齢層別事故件数 (平成 21 年)

業態別の事故惹起運転者の平均年齢は、バスは運転者の平均年齢よりも若干低く、トラックではほぼ同じ、タクシーでは若干高い状況となっており傾向は業態毎に異なっている。



業態	バス	タクシー	トラック
平均年齢	47.8	56.1	43.6
平均年齢 (事故あり)	46.0	57.4	43.9

事故惹起運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

図 10 業態別運転者年齢層別事故件数 (平成 21 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
厚生労働省「平成21年賃金構造基本統計調査(全国)」

表 9 業態別運転者年齢層別事故件数 (平成 21 年)

		20歳未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75歳以上	合計
バス	乗合	0	19	135	257	401	475	422	340	335	194	44	8	0	2,630
	貸切	0	0	12	19	50	57	49	42	51	60	25	10	2	377
	その他	0	0	11	12	15	19	14	16	17	16	4	4	1	129
	小計	0	19	158	288	466	551	485	398	403	270	73	22	3	3,136
ハイタク	法人	0	53	189	332	711	1,056	1,446	2,371	4,789	5,497	2,964	1,242	201	20,851
	個人	0	3	4	2	12	32	43	110	299	394	295	196	135	1,525
	その他乗用	13	59	49	55	56	59	77	88	154	224	125	57	16	1,032
小計	13	115	242	389	779	1,147	1,566	2,569	5,242	6,115	3,384	1,495	352	23,408	
貨物自動車	大型	0	133	560	922	1,369	1,299	1,033	775	835	522	144	29	2	7,623
	中型	4	672	936	1,087	1,332	1,137	921	855	888	611	165	38	2	8,648
	普通	54	374	516	536	648	533	373	393	465	335	135	34	9	4,405
	軽	21	176	205	245	365	441	415	500	658	648	417	174	51	4,316
小計	79	1,355	2,217	2,790	3,714	3,410	2,742	2,523	2,846	2,116	861	275	64	24,992	
合計	92	1,489	2,617	3,467	4,959	5,108	4,793	5,490	8,491	8,501	4,318	1,792	419	51,536	
トレーラ(トラックの内数)		2	21	106	184	289	246	189	158	140	100	19	4	0	1,458

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 業態別事故類型別事故惹起運転者平均年齢（平成 21 年）

事故類型によって業態毎に、事故惹起運転者の平均年齢が運転者全体の平均年齢と差があることから、年齢層毎に起こしやすい事故があることがわかる。

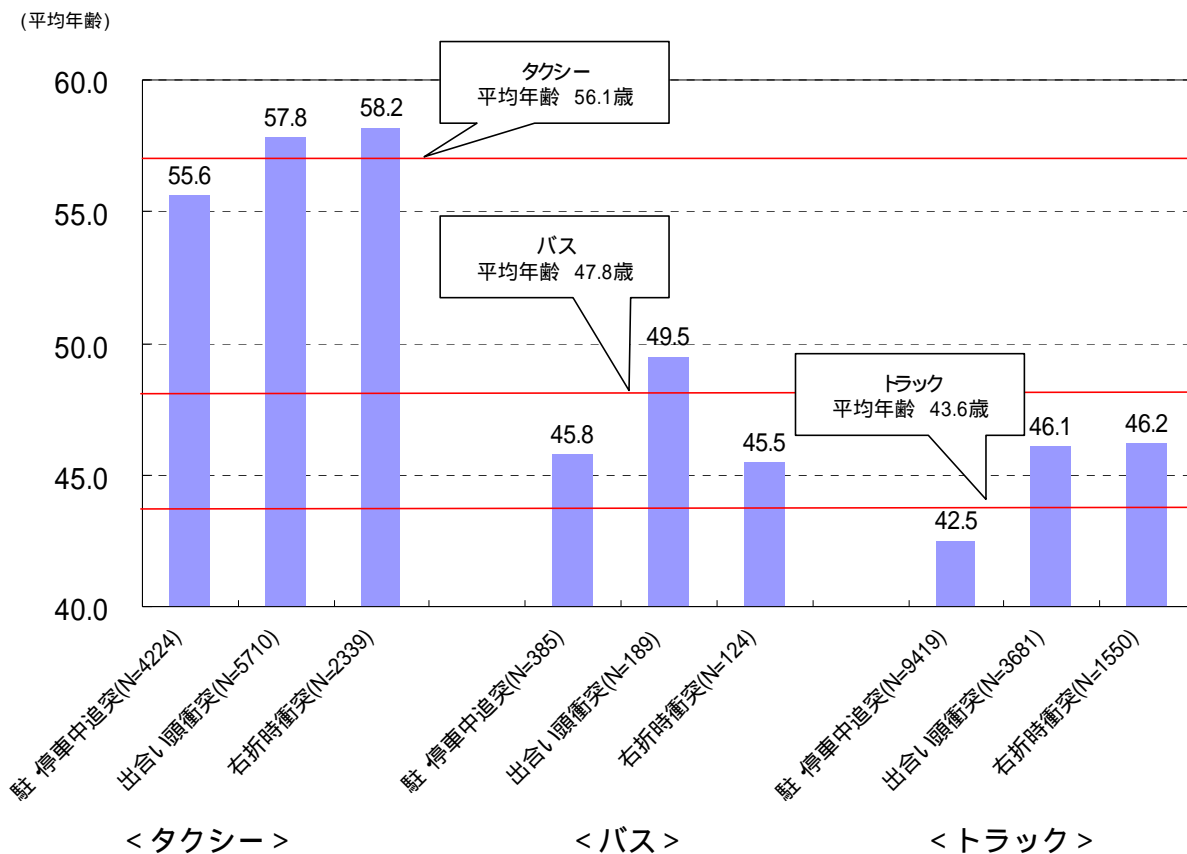


図 11 業態別事故類型別事故惹起運転者平均年齢（車両との事故）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

事故惹起運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

上記事故類型は「車両との事故」の事故類型から事故件数の多い3つを抽出



## 2. バスの事故

### (1) バスの事故件数、死傷事故件数の推移

平成 21 年のバスによる事故は、平成 18 年まで増加傾向にあったが、平成 19 年以降は減少している。

平成 21 年の死亡事故件数、重傷事故件数は前年より若干増加している。

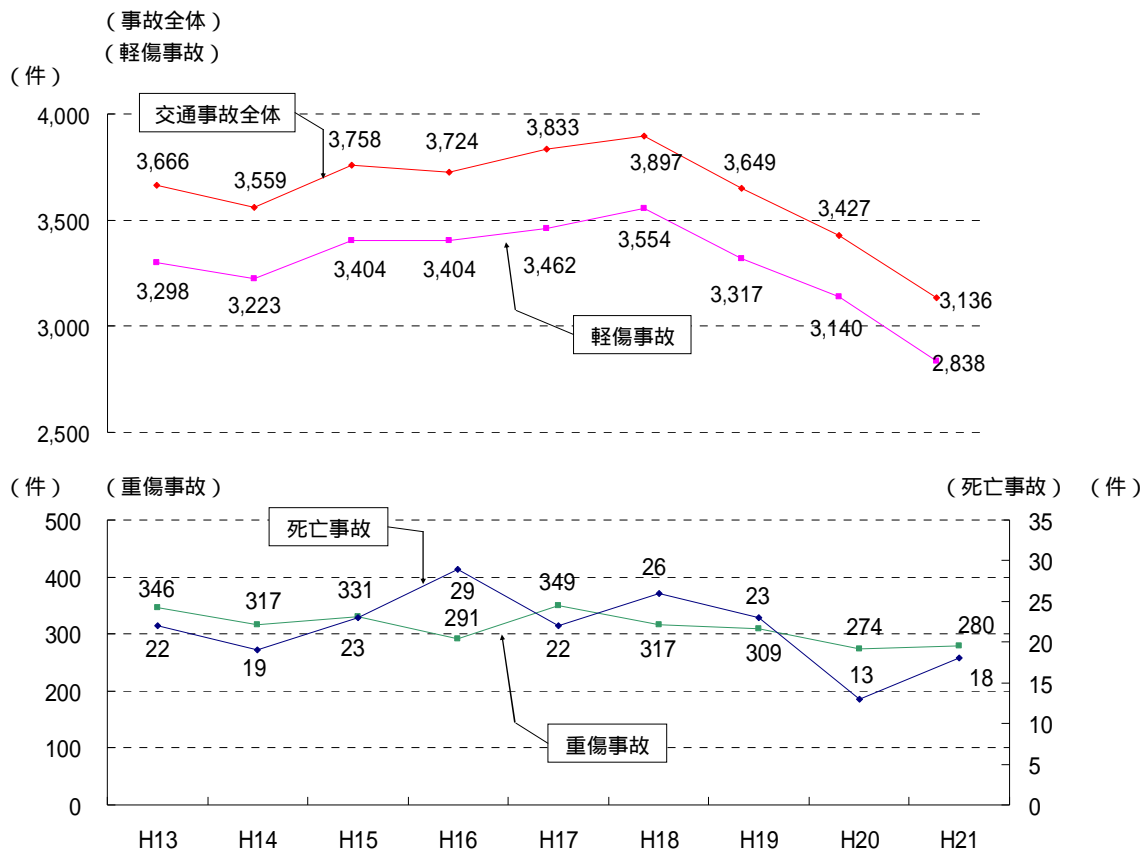


図 12 バスの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 10 バスの事故件数の推移

年	区分	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H13		22	346	3,298	3,666
H14		19	317	3,223	3,559
H15		23	331	3,404	3,758
H16		29	291	3,404	3,724
H17		22	349	3,462	3,833
H18		26	317	3,554	3,897
H19		23	309	3,317	3,649
H20		13	274	3,140	3,427
H21		18	280	2,838	3,136

(バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値を示す。)

(2) バス事故の死傷者数の推移

バスの事故による、重傷者数は、平成13年の366人から増減を繰り返し、平成17年以降、平成20年までは減少していたが、平成21年は前年より1人増加し284人となった。

死者数は、平成20年に大きく減少し、年間13人となったが、平成21年は前年より増加し年間18人となっている。

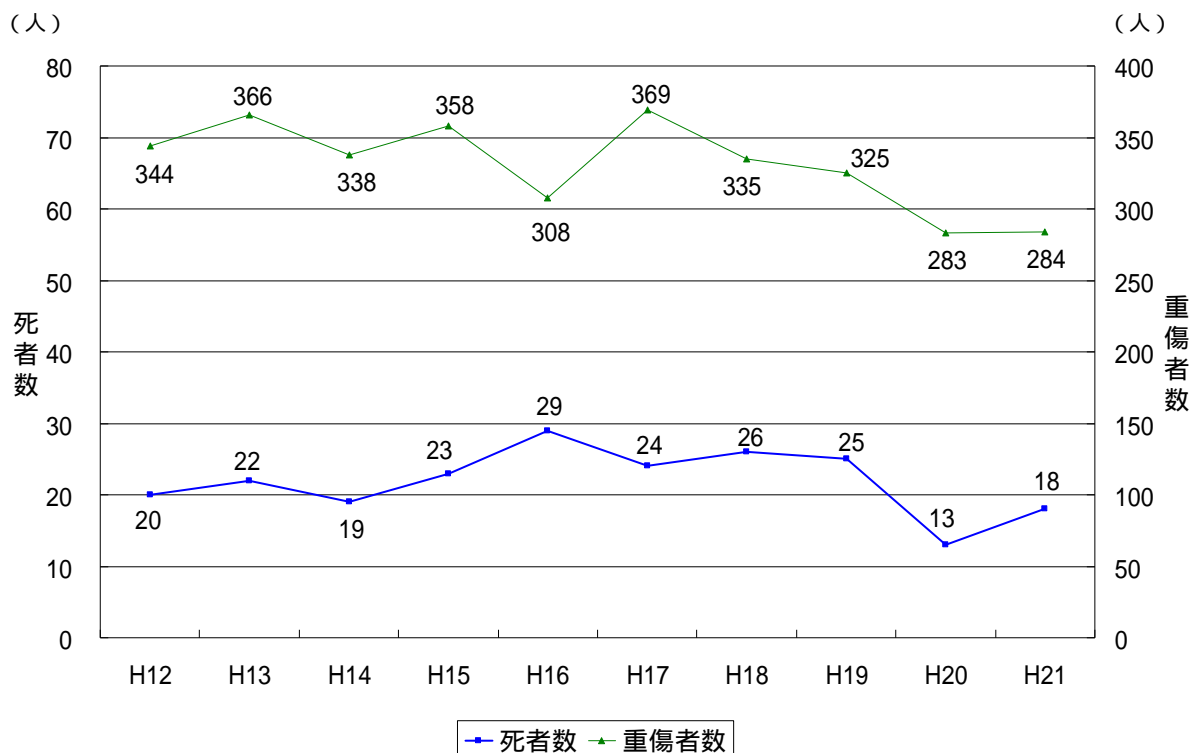


図13 バス事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表11 バスの死傷者数の推移

区分 年	死者数 (人)	重傷者数 (人)	軽傷者数 (人)	死傷者合計 (人)
H12	20	344	4,125	4,489
H13	22	366	4,477	4,865
H14	19	338	4,176	4,533
H15	23	358	4,353	4,734
H16	29	308	4,306	4,643
H17	24	369	4,411	4,804
H18	26	335	4,693	5,054
H19	25	325	4,255	4,605
H20	13	283	3,950	4,246
H21	18	284	3,514	3,816

(バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値を示す。)

## 2-1. 乗合バスの事故

### (1) 乗合バスの事故件数、死傷事故件数の推移

平成 21 年の乗合バスによる事故は、平成 18 年まで増加傾向にあったが平成 19 年以降は減少している。

平成 21 年の死亡事故件数、重傷事故件数は前年より若干増加している。

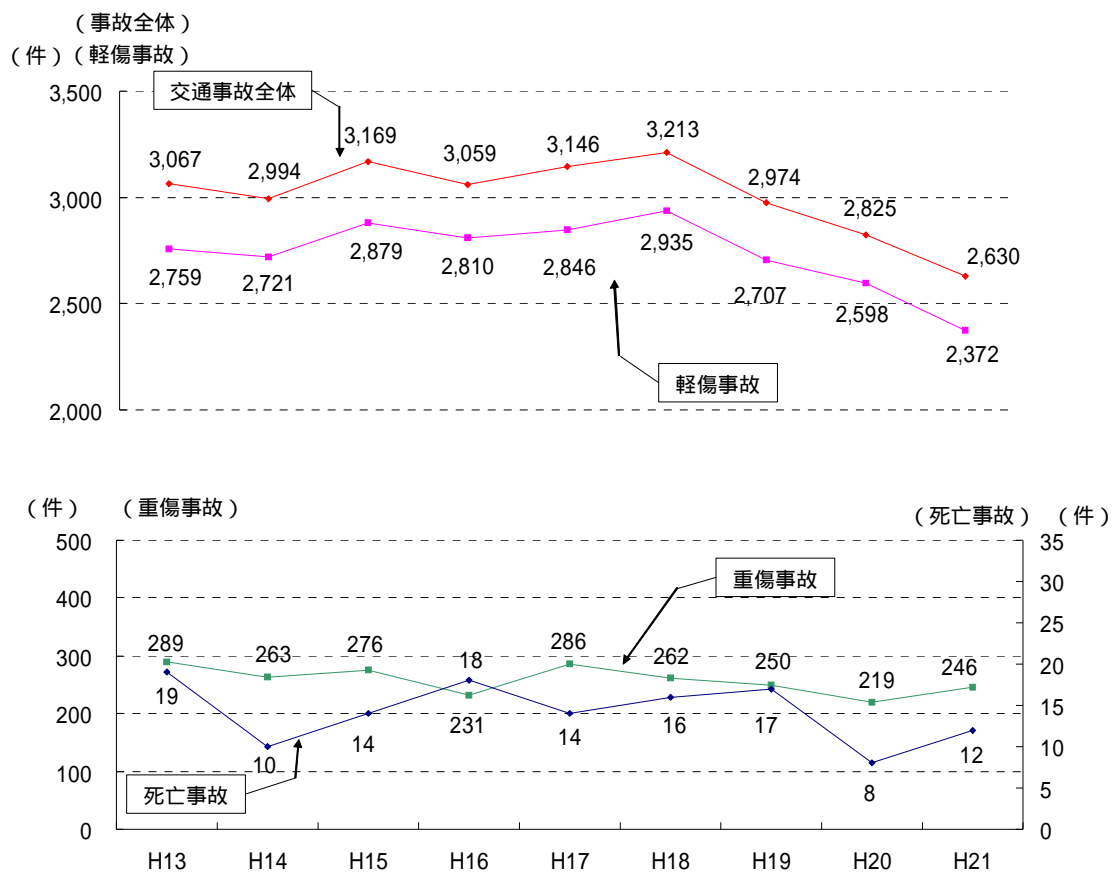


図 14 乗合バスの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 12 乗合バスの事故件数の推移

年	区分	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H13		19	289	2,759	3,067
H14		10	263	2,721	2,994
H15		14	276	2,879	3,169
H16		18	231	2,810	3,059
H17		14	286	2,846	3,146
H18		16	262	2,935	3,213
H19		17	250	2,707	2,974
H20		8	219	2,598	2,825
H21		12	246	2,372	2,630

(2) 乗合バス事故の死傷者数の推移

平成21年の乗合バスの重傷事故による死者、重傷者数は、いずれも前年より増加している。

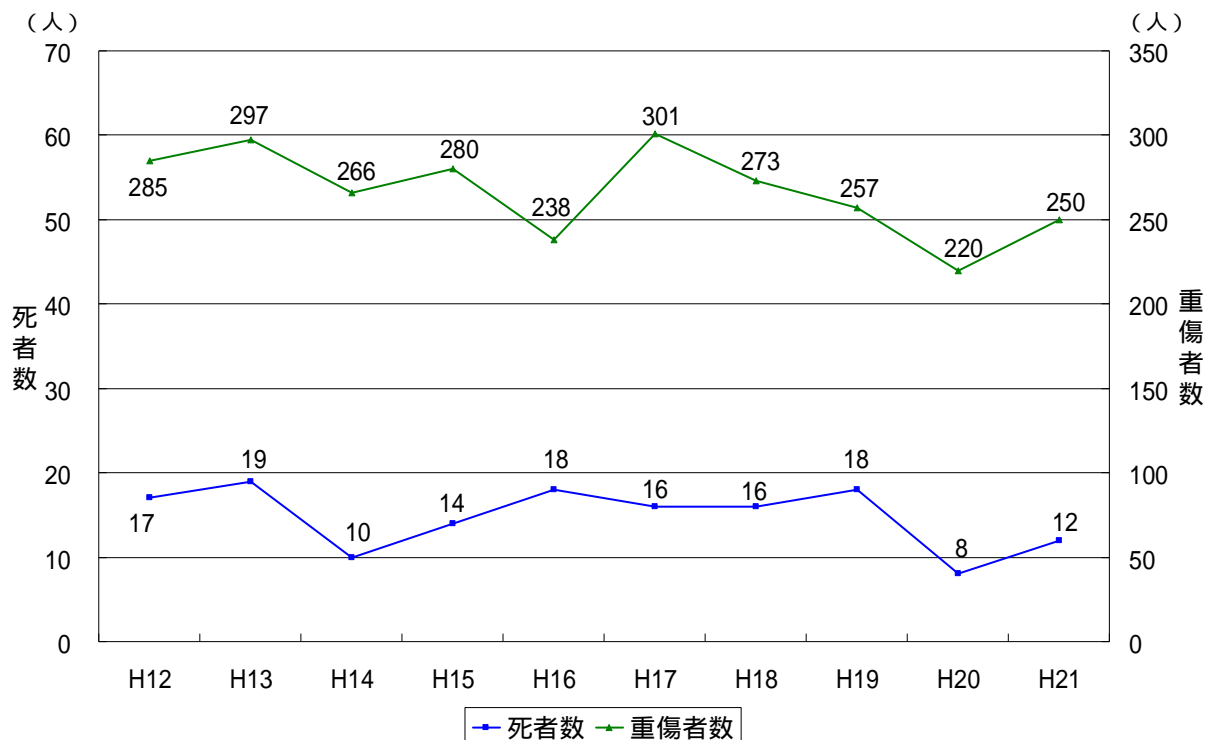


図15 乗合バス事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表13 乗合バス事故の死傷者数の推移

	死者数 (人)	重傷者数 (人)	軽傷者数 (人)	死傷者合計 (人)
H12	17	285	3,201	3,503
H13	19	297	3,330	3,646
H14	10	266	3,332	3,608
H15	14	280	3,390	3,684
H16	18	238	3,284	3,540
H17	16	301	3,417	3,734
H18	16	273	3,559	3,848
H19	18	257	3,187	3,462
H20	8	220	3,042	3,270
H21	12	250	2,818	3,080

( 3 ) 乗合バスの事故類型別事故件数

乗合バスは単独事故（そのうち車内事故は約 3/4）が最も多く、次いで他車との事故が多い。

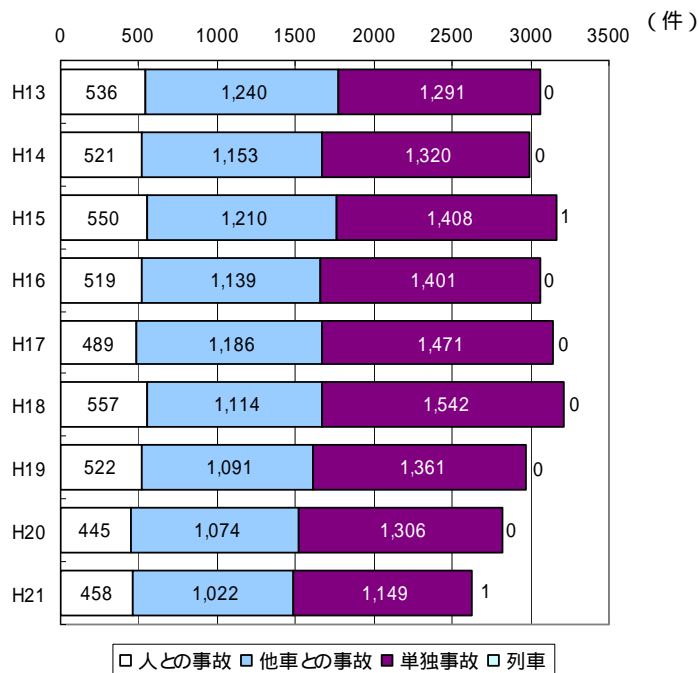


図 16 乗合バスの事故類型別事故件数  
出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 4 ) 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳(人との事故)

人との事故は、歩行者が横断中に発生する件数が多い、近年増加傾向にある。

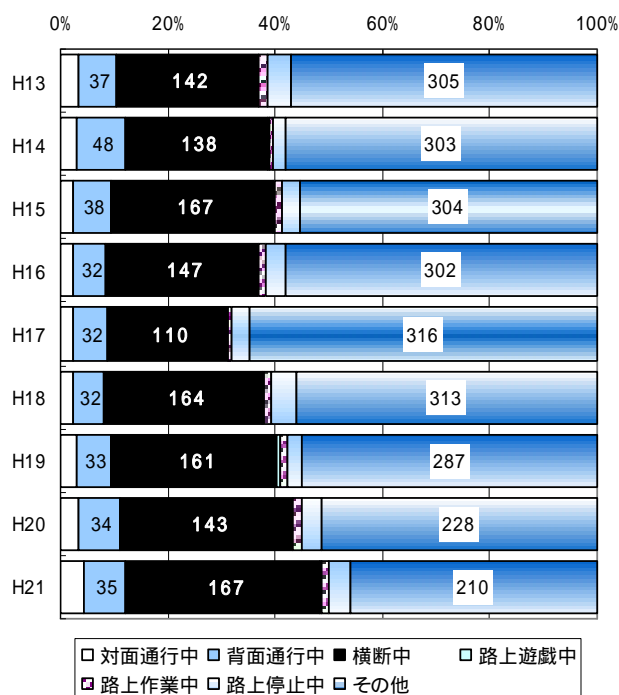
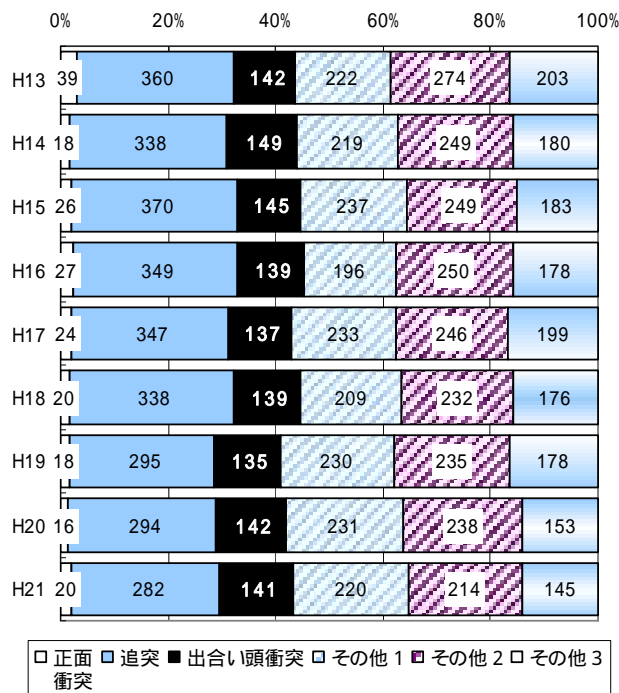


図 17 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳(人との事故)  
出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 5 ) 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳(他車との事故)

他車との事故は、追突が最も多い。



その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折時衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

図 18 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳(他車との事故)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 6 ) 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳(単独事故)

単独事故は、車内事故の占める割合が高い。

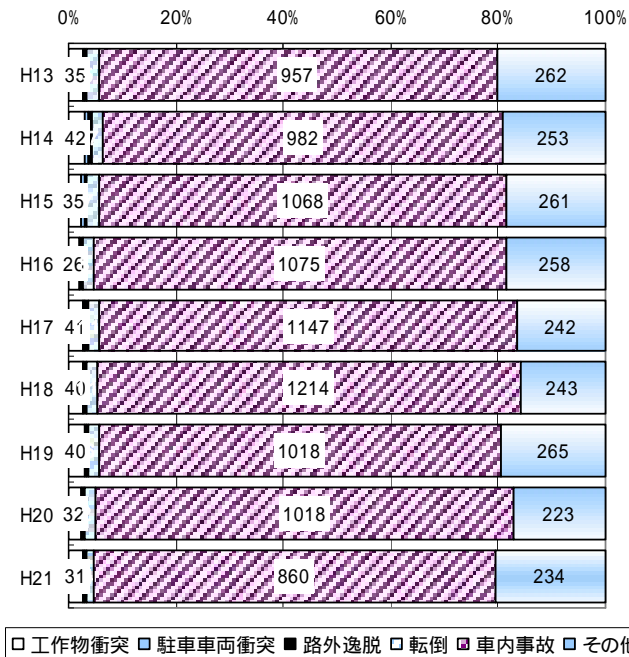


図 19 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳(単独事故)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、人との事故が最も多く、次いで他車との事故が多い。

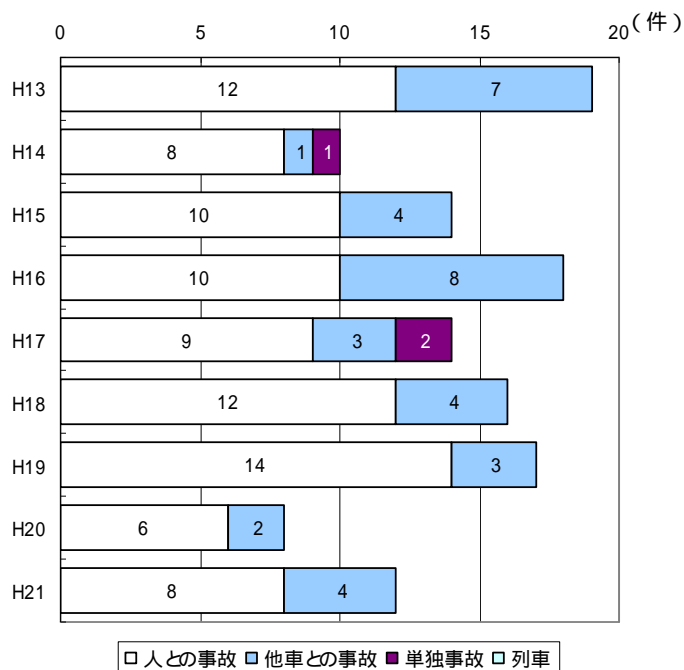


図 20 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) バスの事故類型別死亡事故件数の内訳(人との事故)

人との死亡事故は、歩行者が横断中に発生する件数が多い。

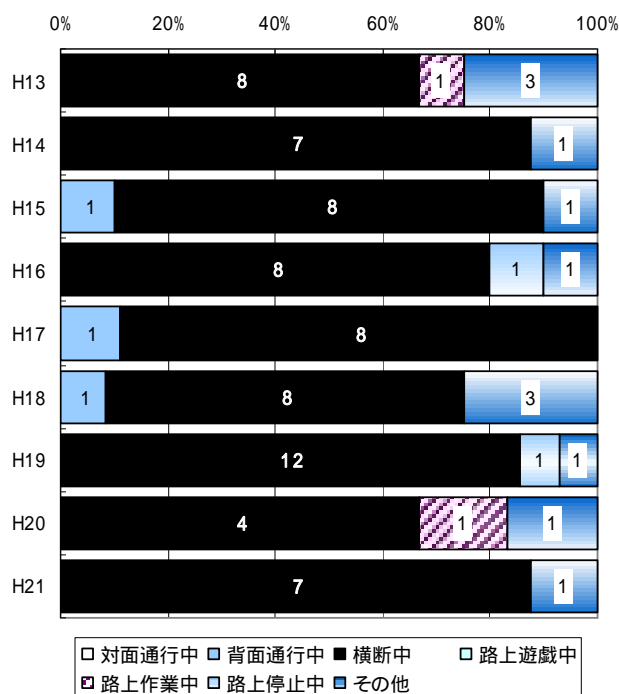


図 21 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳(人との事故)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳(他車との事故)

他車との事故は、平成17年以降は死亡事故件数は2~4件にとどまっている。

表14 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳(他車との事故)

	正面	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H13	1	0	3	2	0	1
H14	0	0	0	0	1	0
H15	0	1	0	0	2	1
H16	0	1	2	1	3	1
H17	0	0	0	0	2	1
H18	0	0	0	1	1	2
H19	0	0	0	1	0	2
H20	0	0	0	1	1	0
H21	0	0	1	2	0	1

その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折時衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合(平成21年)

乗合バスでは、「安全不確認」(29.8%)、「運転操作」(19.8%)、「動静不注視」(16.3%)といった法令違反の事故が多い。「運転操作」は車内事故発生の要因の一つと考えられる。貸切バスは乗合バスに比べて「脇見運転」が多く、追突の要因と考えられる。

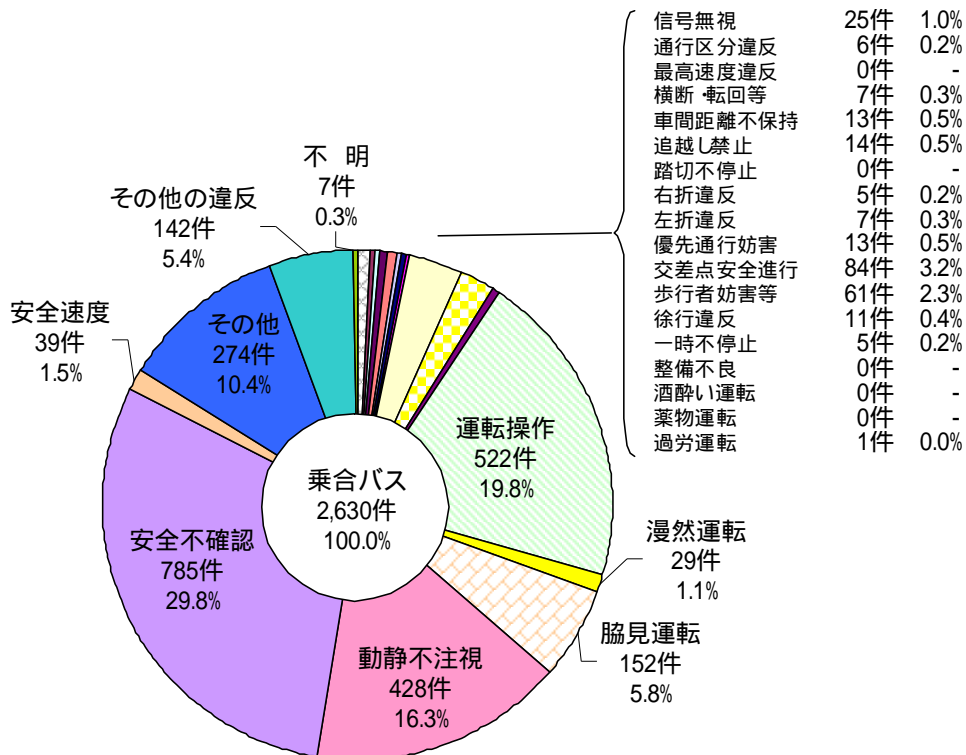


図22 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



(11) 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移

乗合バスの車内事故は、平成 18 年度まで増加傾向にあったが、平成 19 年以降は減少しており、平成 21 年は前年と比べて 158 件 (15.5%) 減少した。平成 18 年度の本検討会で取りまとめられた「バスの車内事故を防止するための安全対策の提言」を踏まえ、(社)日本バス協会が平成 19 年に実施した「バスの車内事故防止キャンペーン」が平成 19 年に引き続いて効果を上げていると考えられる。

また、平成 21 年に発生した車内事故 860 件のうち、行動類型別にみると、発進時が最も多く 351 件 (40.8%)、平成 19 年に減少したものの、平成 20 年は増加。平成 21 年は平成 19 年と並び推移している。次いで急停止時 131 件 (15.2%)、等速時 127 件 (14.8%)、減速時 113 件 (13.1%) となっている。

表 15 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
発進	376	342	355	419	427	435	413	348	422	351
直進	加速	52	47	41	49	28	53	64	46	36
	等速	137	145	145	148	132	167	187	156	140
	減速	136	134	161	160	162	159	187	152	133
急停止	146	160	154	159	196	188	223	155	148	131
右左折	30	45	49	45	46	61	43	47	56	37
その他	80	84	77	88	84	84	97	114	83	79
小計	957	957	982	1,068	1,075	1,147	1,214	1,018	1,018	860

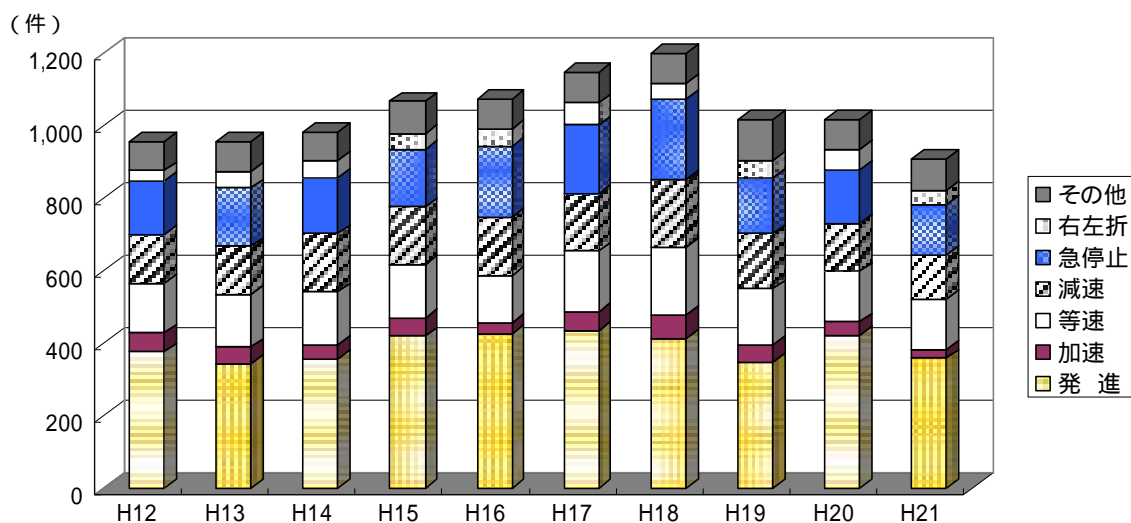


図 23 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

乗合バスの車内事故による重傷者数は、近年減少傾向にあるが、依然として多くの重傷者が発生している。

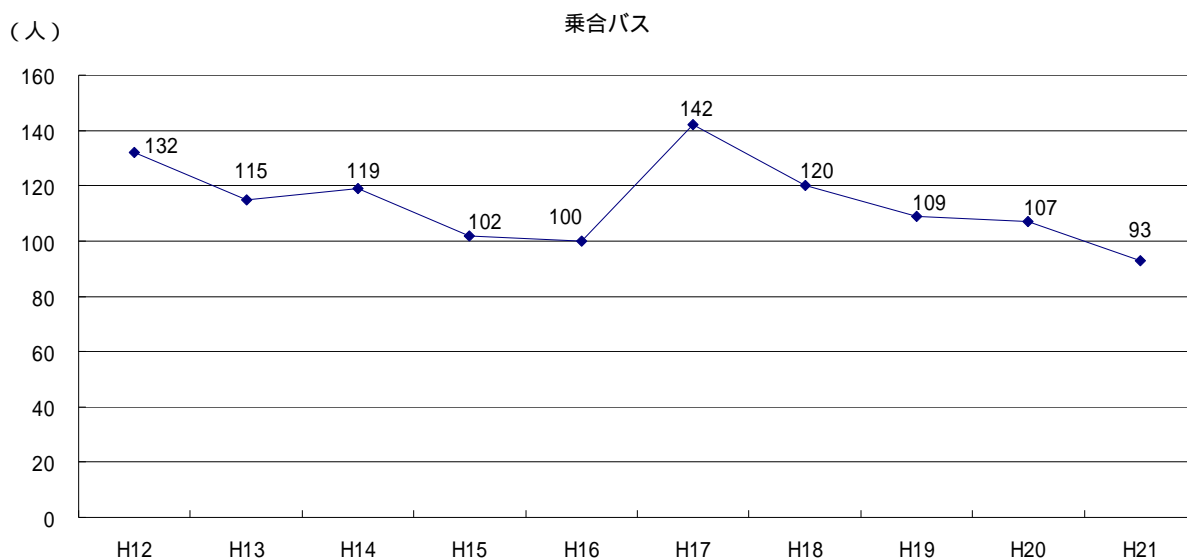


図 24 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) 乗合バスの車内事故による年齢層別男女別の重傷者数

乗合バスの車内事故による重傷者を性・年齢別にみると、女性の65歳以上に多く、そのうち75～79歳が最も多く21人となっている。

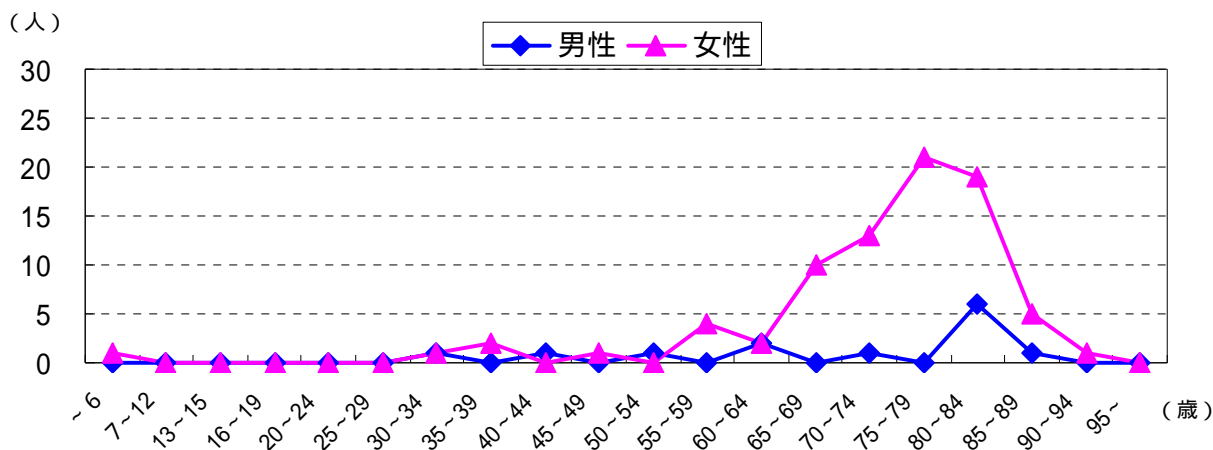


図 25 乗合バスの車内事故による年齢層別男女別の重傷者数 (平成 21 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) 輸送人員一億人あたり及び走行キロ一億キロあたりの乗合バスの車内事故件数

輸送人員一億人あたり及び走行キロ一億キロあたり乗合バスの車内事故件数を見ると、乗合バスの輸送人員は平成 19 年までは微減、走行キロは変化がないことから、車内事故件数と同等の傾向を示している。

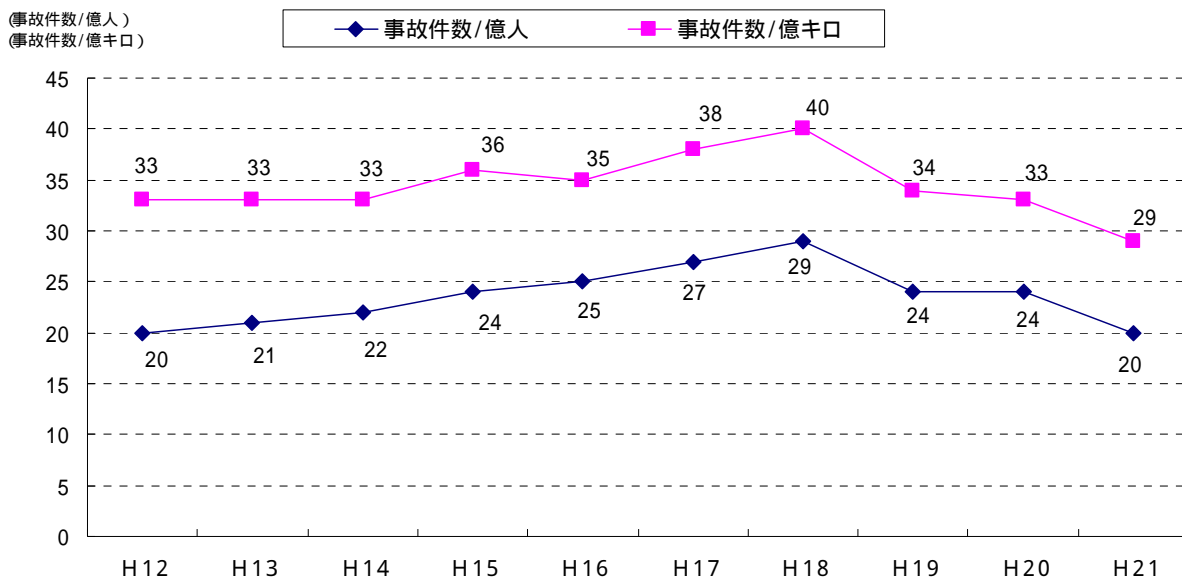


図 26 輸送人員一億人あたり及び走行キロ一億キロあたり乗合バスの車内事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
国土交通省「自動車輸送統計調査」

表 16 乗合バスの車内事故件数、輸送人員及び走行キロの推移

	事故件数	輸送人員 (億人)	走行キロ (億キロ)
H12	957	48	29
H13	957	46	29
H14	982	45	30
H15	1,068	44	30
H16	1,075	43	30
H17	1,147	42	30
H18	1,214	42	30
H19	1,018	42	30
H20	1,018	43	31
H21	860	42	30

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
国土交通省「自動車輸送統計調査」

(15) 時間帯別・事故種別乗合バスの車内事故件数

乗合バスの車内事故を時間帯別にみると、8時～19時台の日中の時間帯に特に多く発生している。

表 17 時間帯別・事故種別乗合バスの車内事故件数（平成 21 年）

時間帯	重傷	軽傷	負傷計
6～7	2	29	31
8～9	16	115	131
10～11	27	145	172
12～13	14	130	144
14～15	13	118	131
16～17	11	130	141
18～19	11	60	71
20～21	0	24	24
22～23	0	13	13
24～1	0	1	1
2～3	0	0	0
4～5	0	1	1
合計	94	766	860

運転者が負傷した事故を含む。

乗合バスの車内事故は、8時～17時台の日中の時間帯に特に多く発生し、重傷事故でこの傾向は顕著である。

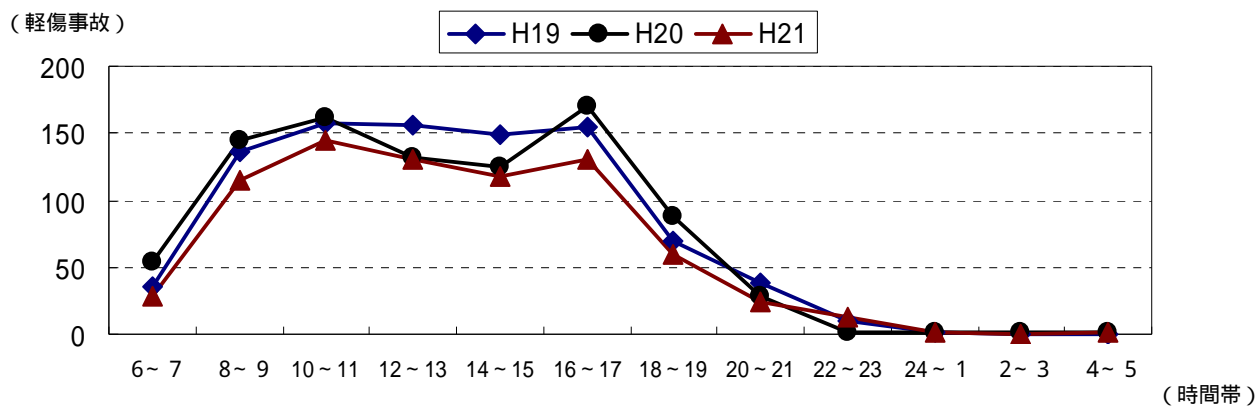
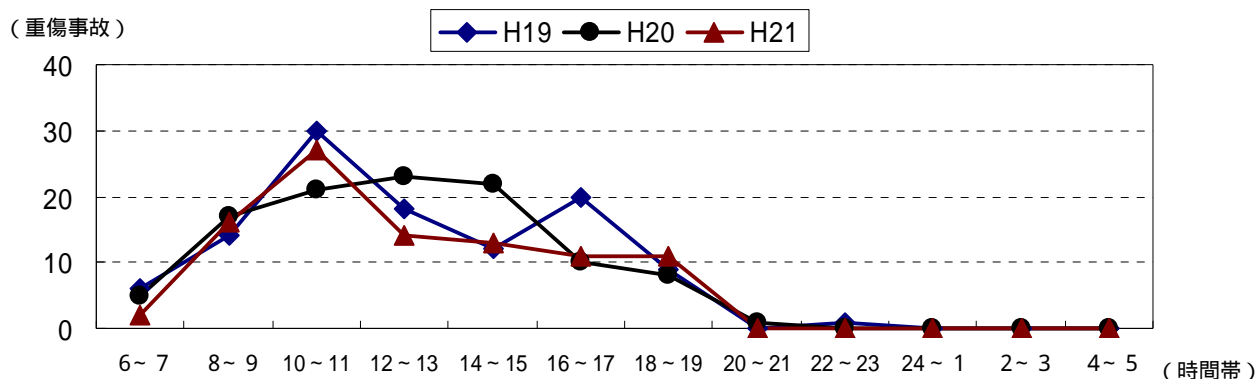


図 27 時間帯別乗合バスの車内事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(16) 乗合バスの車内事故による年齢階層別負傷者数

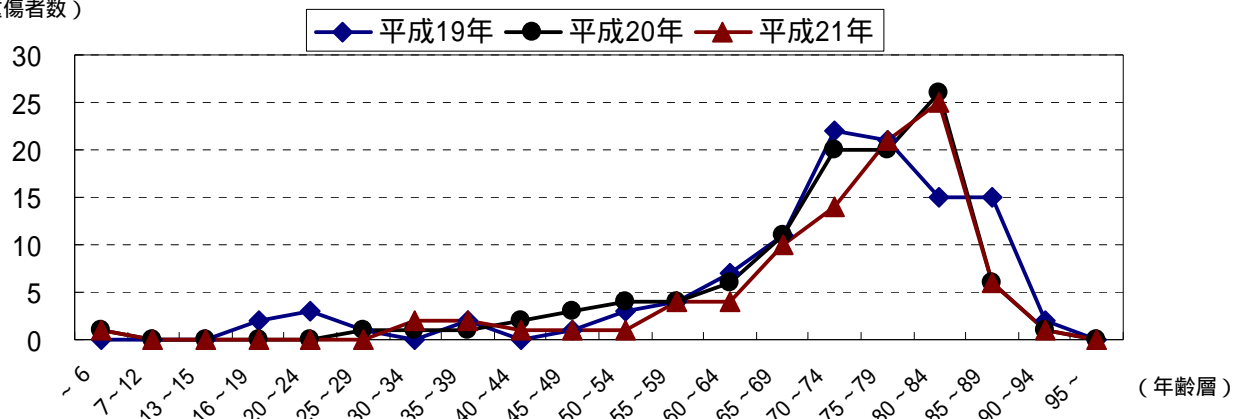
乗合バスの車内事故による負傷者を年齢層別にみると70～74歳が最も多く、かつ、65歳以上が540人(56.5%)と高齢者が過半数を占めている。

さらに、重傷者では、65歳以上が93人中77人(82.8%)と高齢者の占める割合が顕著となっている。

表 18 乗合バスの車内事故による年齢層別負傷者数(平成21年)

年齢層	重傷者	軽傷者	負傷者計
～6	1	21	22
7～12	0	11	11
13～15	0	2	2
16～19	0	22	22
20～24	0	21	21
25～29	0	19	19
30～34	2	26	28
35～39	2	42	44
40～44	1	37	38
45～49	1	46	47
50～54	1	34	35
55～59	4	48	52
60～64	4	71	75
65～69	10	75	85
70～74	14	144	158
75～79	21	104	125
80～84	25	76	101
85～89	6	51	57
90～94	1	12	13
95～	0	1	1
合計	93	863	956

(重傷者数)



(軽傷者数)

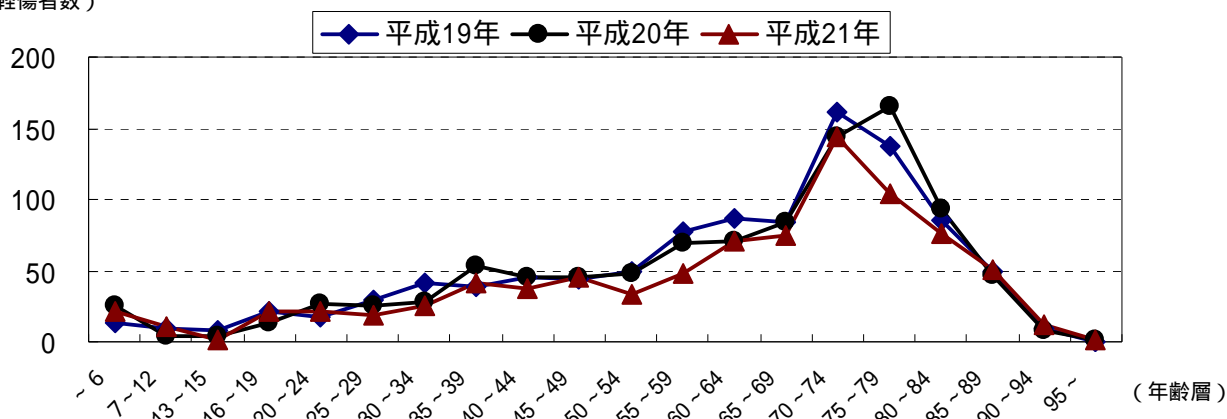


図 28 乗合バスの車内事故による年齢層別負傷者数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

乗合バスの車内事故による負傷者を男女年齢層別に見ると男性は70～74歳が最も多く、かつ65歳以上が83人(46.1%)と高齢者が5割弱を占めている。

また、女性も70～74歳が最も多く(うち重傷者は13人)かつ65歳以上が457人(58.9%)と高齢者が過半数を占めている。

さらに、男性と女性を比べてみると、女性が男性の4.31倍となっている。

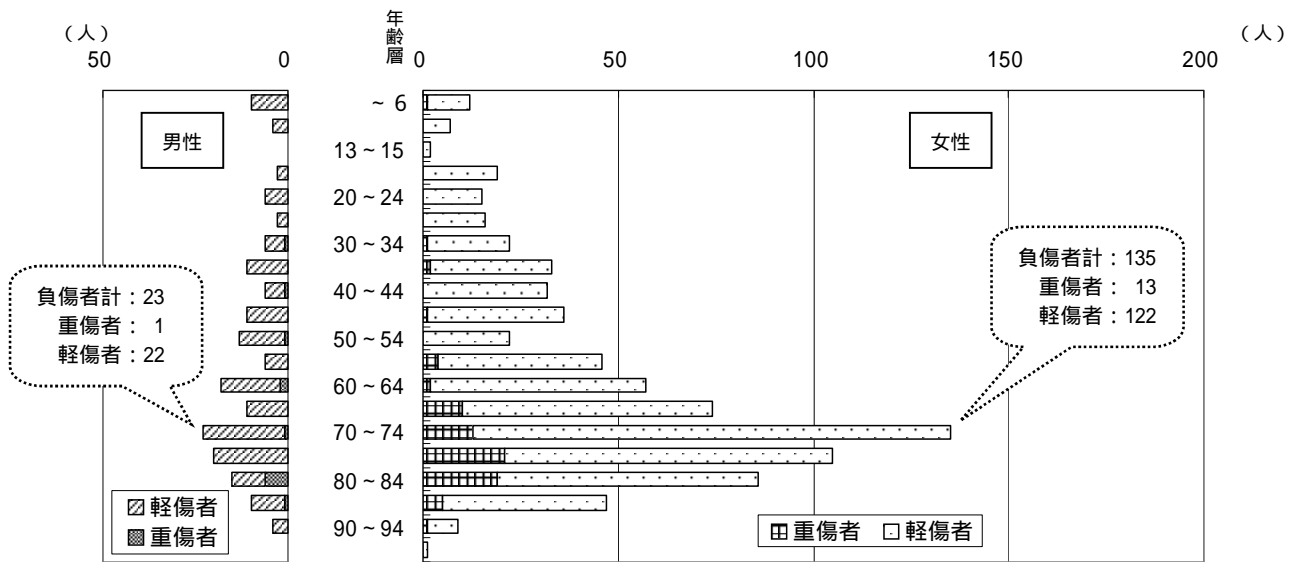


図 29 乗合バスの車内事故による男女別年齢層別負傷者数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 2-2. 貸切バスの事故

### (1) 貸切バスの事故件数、死傷事故件数の推移

平成21年の貸切バス事業者による事故は、死亡、重傷、軽傷ともに、近年減少傾向にある。

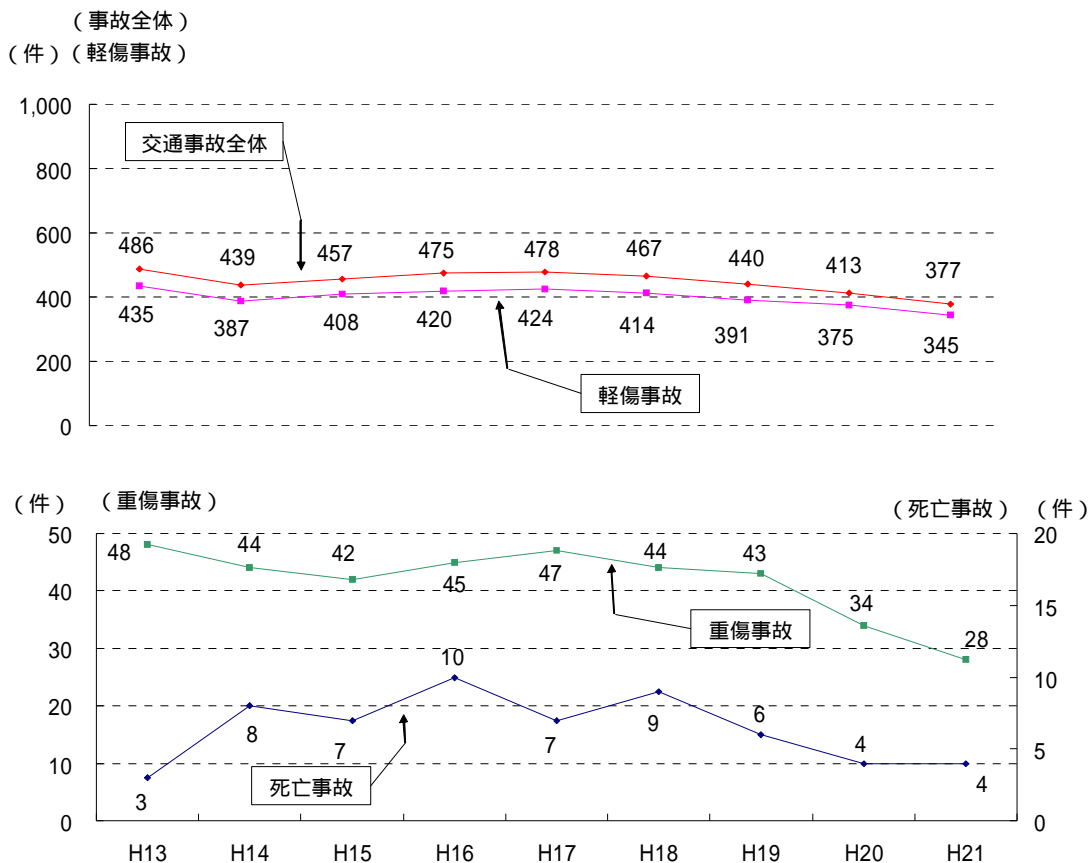


図 30 貸切バスの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 19 貸切バスの事故件数の推移

年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H13	3	48	435	486
H14	8	44	387	439
H15	7	42	408	457
H16	10	45	420	475
H17	7	47	424	478
H18	9	44	414	467
H19	6	43	391	440
H20	4	34	375	413
H21	4	28	345	377

(2) 貸切バス事故の死傷者数の推移

貸切バスの重傷事故は、平成19年以降大きく減少している。

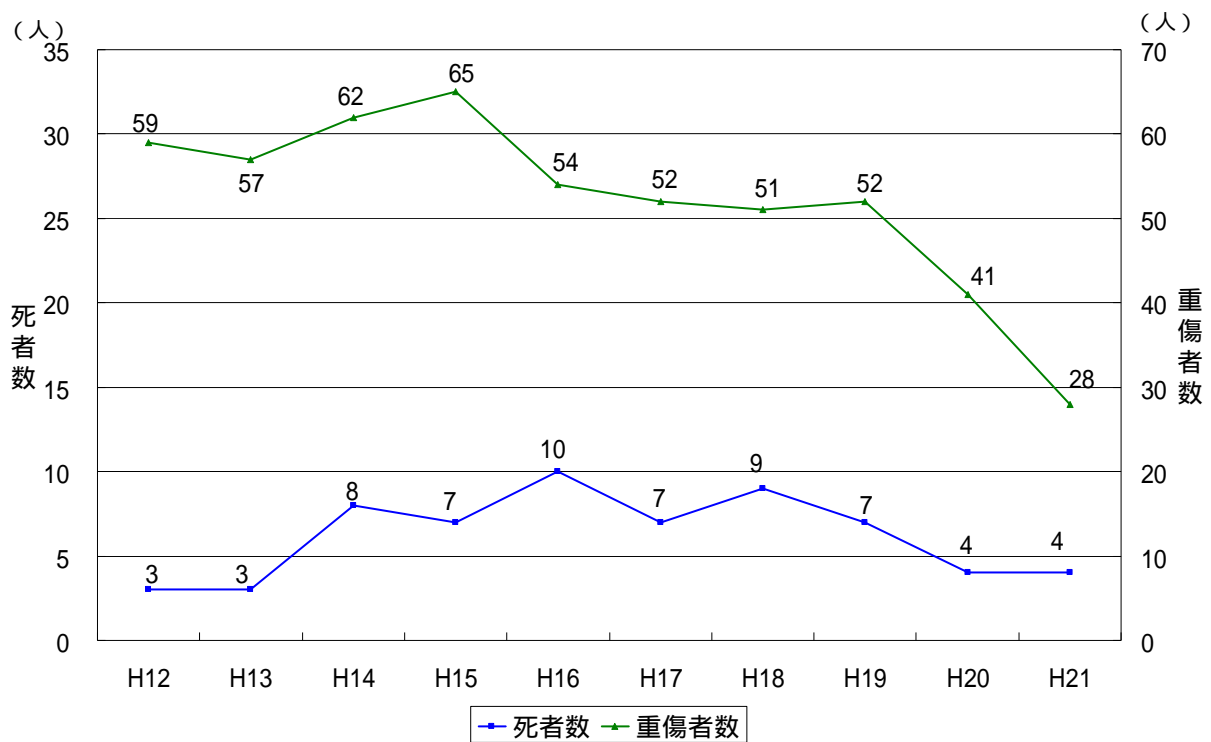


図31 貸切バス事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表20 貸切バス事故の死傷者数の推移

	死者数 (人)	重傷者数 (人)	軽傷者数 (人)	死傷者合計 (人)
H12	3	59	924	986
H13	3	57	943	1,003
H14	8	62	700	770
H15	7	65	821	893
H16	10	54	802	866
H17	7	52	770	829
H18	9	51	852	912
H19	7	52	798	857
H20	4	41	698	743
H21	4	28	545	577



(3) 貸切バスの事故類型別事故件数

貸切バスは他車との事故が他の事故と比べ圧倒的に多い。

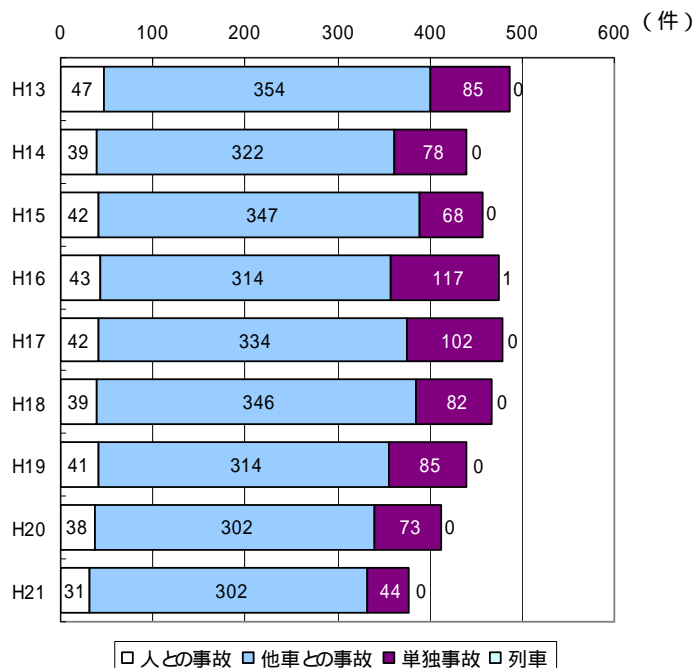


図 32 貸切バスの事故類型別事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳(人との事故)

人との事故は、歩行者が横断中に発生する件数が多い。

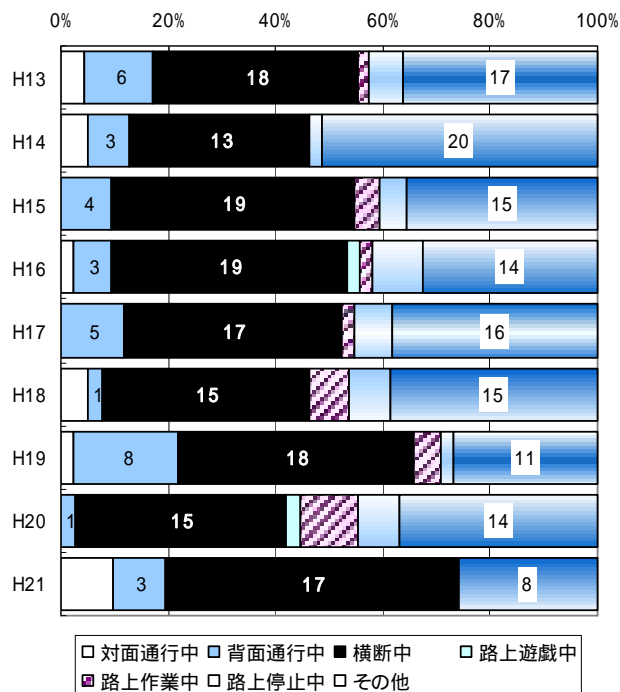
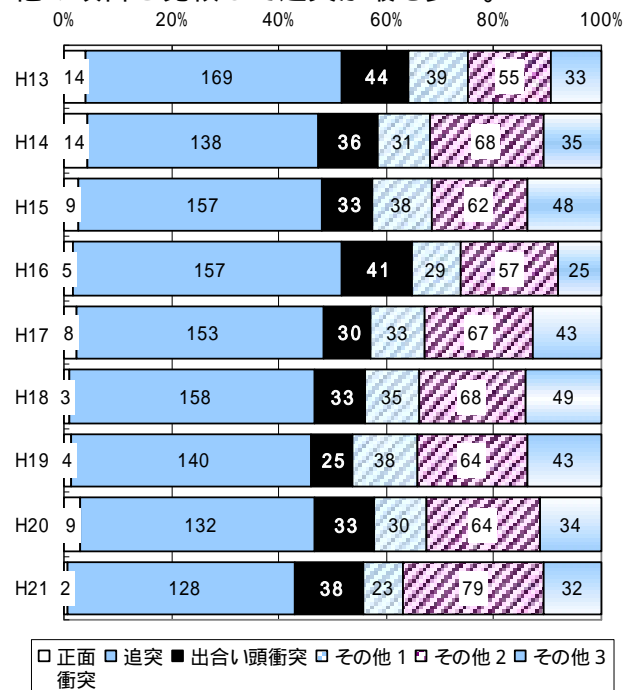


図 33 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳(人との事故)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 5 ) 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳(他車との事故)

他車との事故は、他の項目と比較して追突が最も多い。



その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折時衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

図 34 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳(他車との事故)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 6 ) 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳(単独事故)

単独事故は、車内事故の占める割合が高い。

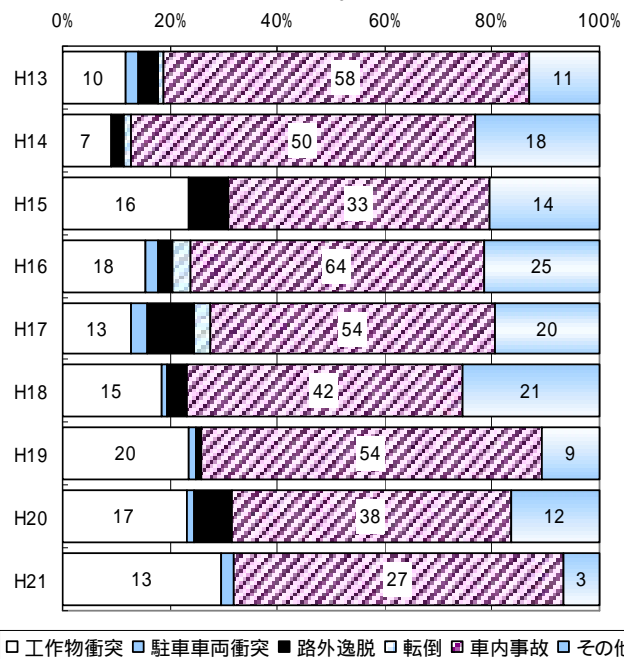


図 35 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳(単独事故)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、他車との事故の方が人との事故よりも若干多い。

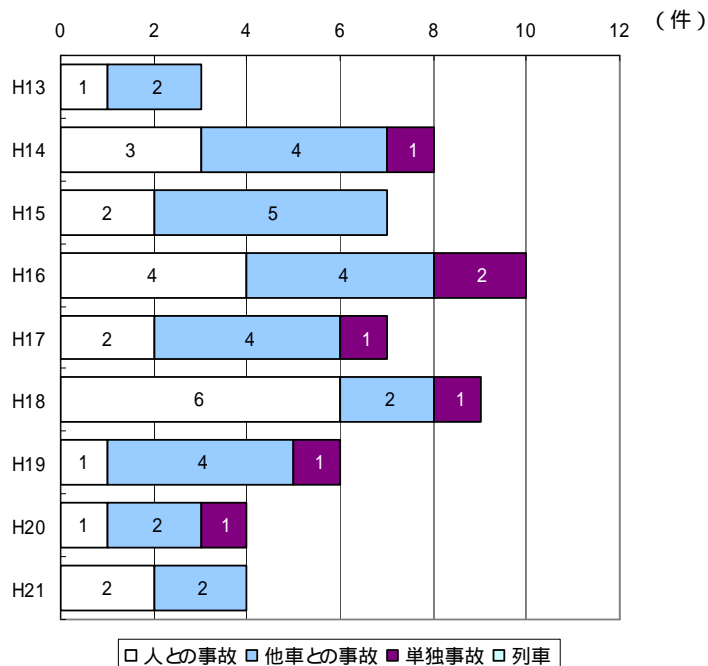


図 36 貸切バスの事故類型別死亡事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳(他車との事故)

他車との事故は、平成 17 年以降は死亡事故件数は 2~4 件にとどまっている。

表 21 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳(他車との事故)

	正面	追突	出合い頭衝突	その他 1	その他 2	その他 3
H13	0	0	0	1	0	1
H14	0	1	2	0	1	0
H15	0	1	1	0	2	1
H16	0	0	1	0	2	1
H17	1	1	1	1	0	0
H18	1	0	0	0	0	1
H19	0	1	1	2	0	0
H20	1	0	0	0	1	0
H21	0	0	1	0	1	0

その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折時衝突、右折時衝突  
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 9 ) 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合 (平成 21 年)

貸切バスでは、「安全不確認」( 32.4% )、「動静不注視」( 17.0% )、「脇見運転」( 13.5% )  
 といった法令違反の事故が多い。

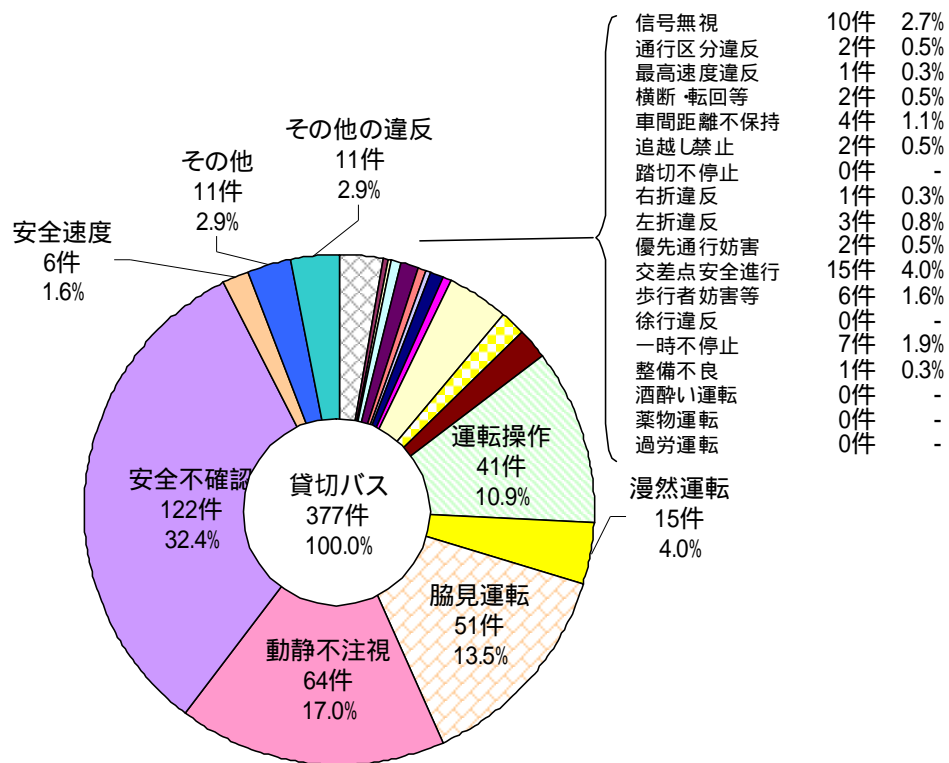


図 37 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 貸切バスの危険認知速度別の事故件数（平成 21 年）

平成21年の貸切バスの危険認知速度別の事故件数は10km/h以下で139件と最も多く発生している。次いで20km/h以下で70件、40km/h以下で53件発生している。

死亡事故は、40～70 km/h以下で3件発生している。

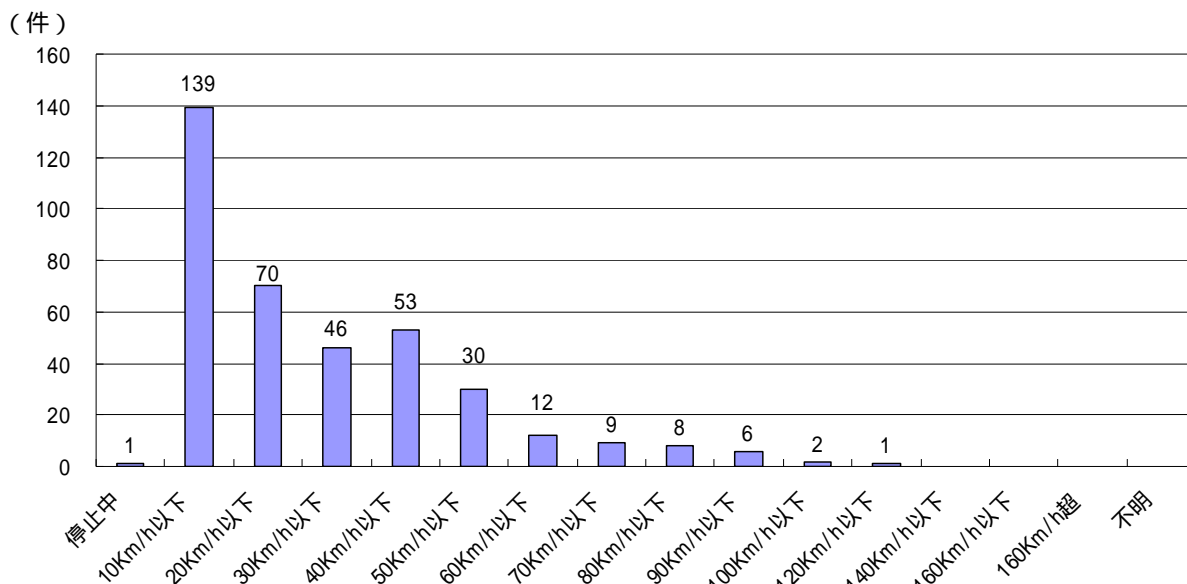


図 38 貸切バスの危険認知速度別の事故件数（平成 21 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

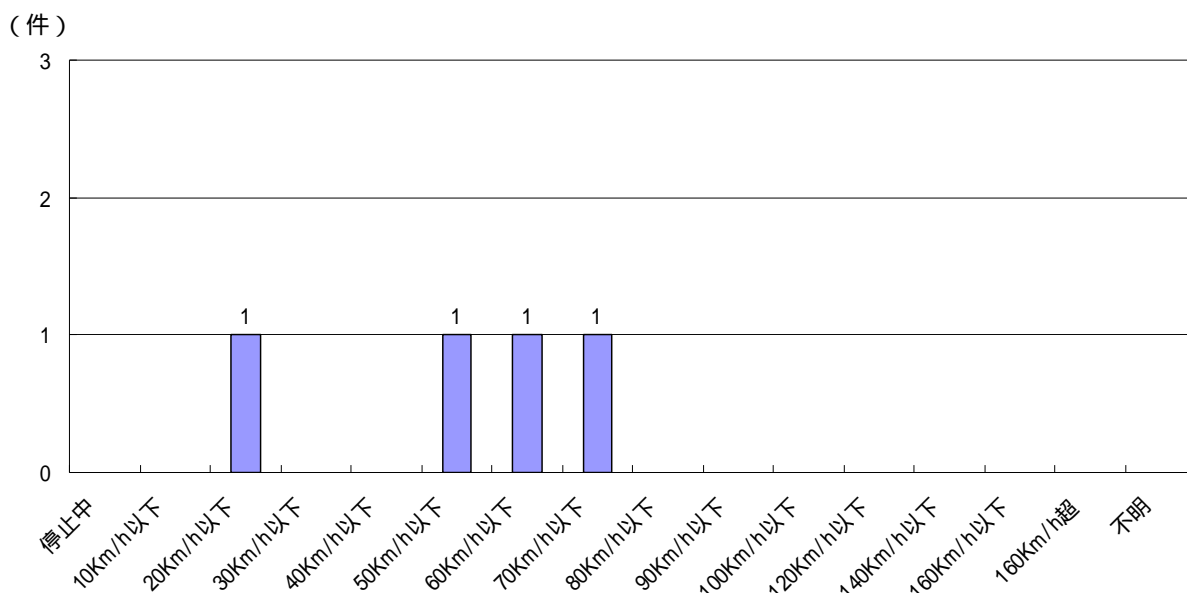


図 39 貸切バスの危険認知速度別の死亡事故件数（平成 21 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### 3. タクシーの事故

#### (1) タクシーの事故件数、死傷事故件数の推移

タクシー事故件数は、平成 17 年まで増加傾向にあったが、平成 18 年以降は減少している。また、死亡事故件数については、平成 20 年は大きく増加したが、平成 21 年は、40 件（対前年比 20.0%減）と大きく減少している。

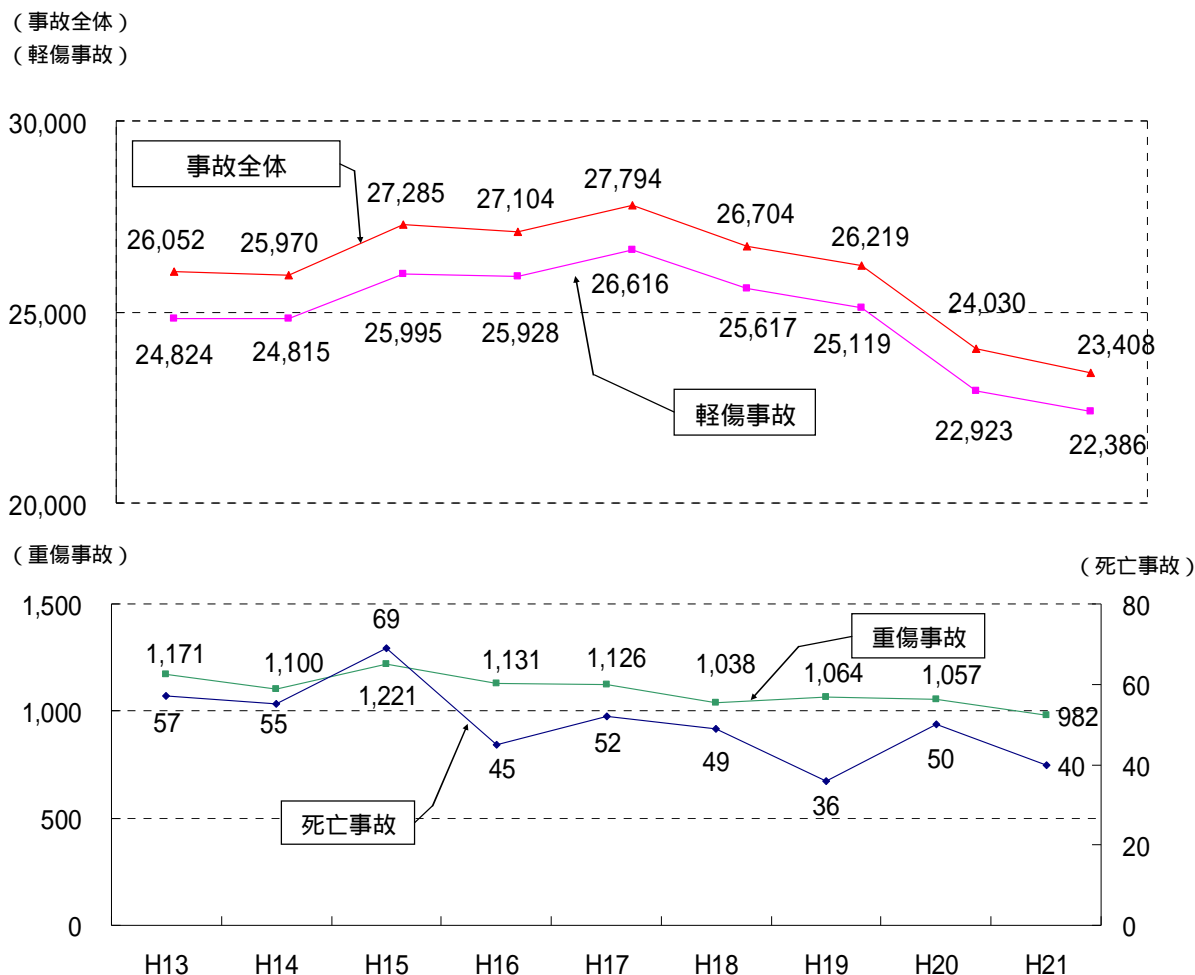


図 40 タクシーの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 22 タクシーの事故件数の推移

年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	事故全体
H13	57	1,171	24,824	26,052
H14	55	1,100	24,815	25,970
H15	69	1,221	25,995	27,285
H16	45	1,131	25,928	27,104
H17	52	1,126	26,616	27,794
H18	49	1,038	25,617	26,704
H19	36	1,064	25,119	26,219
H20	50	1,057	22,923	24,030
H21	40	982	22,386	23,408

(2) タクシー事故の死傷者数の推移

タクシーの事故における重傷者数は平成21年に減少し994人、死者数は40人であった。

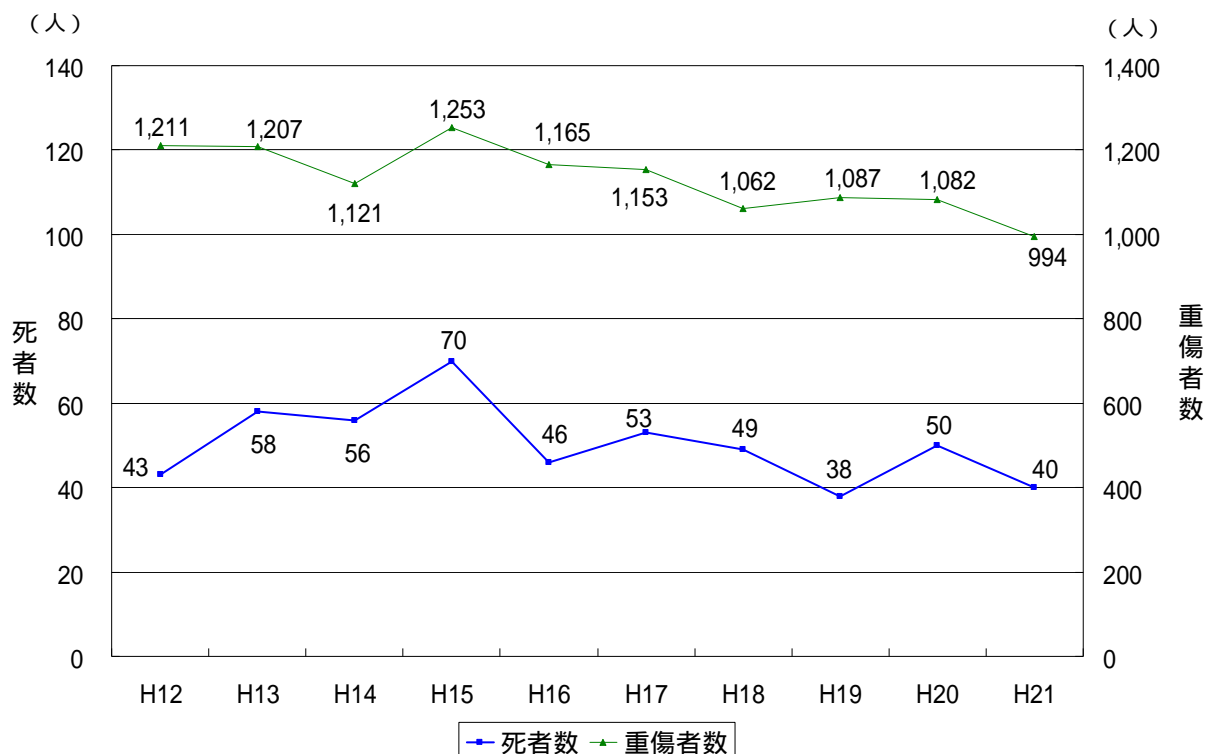


図 41 タクシー事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 23 タクシー事故の死傷者数の推移

区分 年	死者数 (人)	重傷者数 (人)	軽傷者数 (人)	死傷者合計 (人)
H12	43	1,211	28,863	30,117
H13	58	1,207	29,255	30,520
H14	56	1,121	29,396	30,573
H15	70	1,253	30,627	31,950
H16	46	1,165	30,482	31,693
H17	53	1,153	31,161	32,367
H18	49	1,062	29,986	31,097
H19	38	1,087	29,813	30,938
H20	50	1,082	26,897	28,029
H21	40	994	25,963	26,997

( 3 ) タクシーの行動類型別事故件数の割合 (平成 21 年)

タクシーの行動類型別事故件数は、等速 (直進) 6,510件 (27.8%) が最も多く、次いで右折3,727件 (15.9%) である。

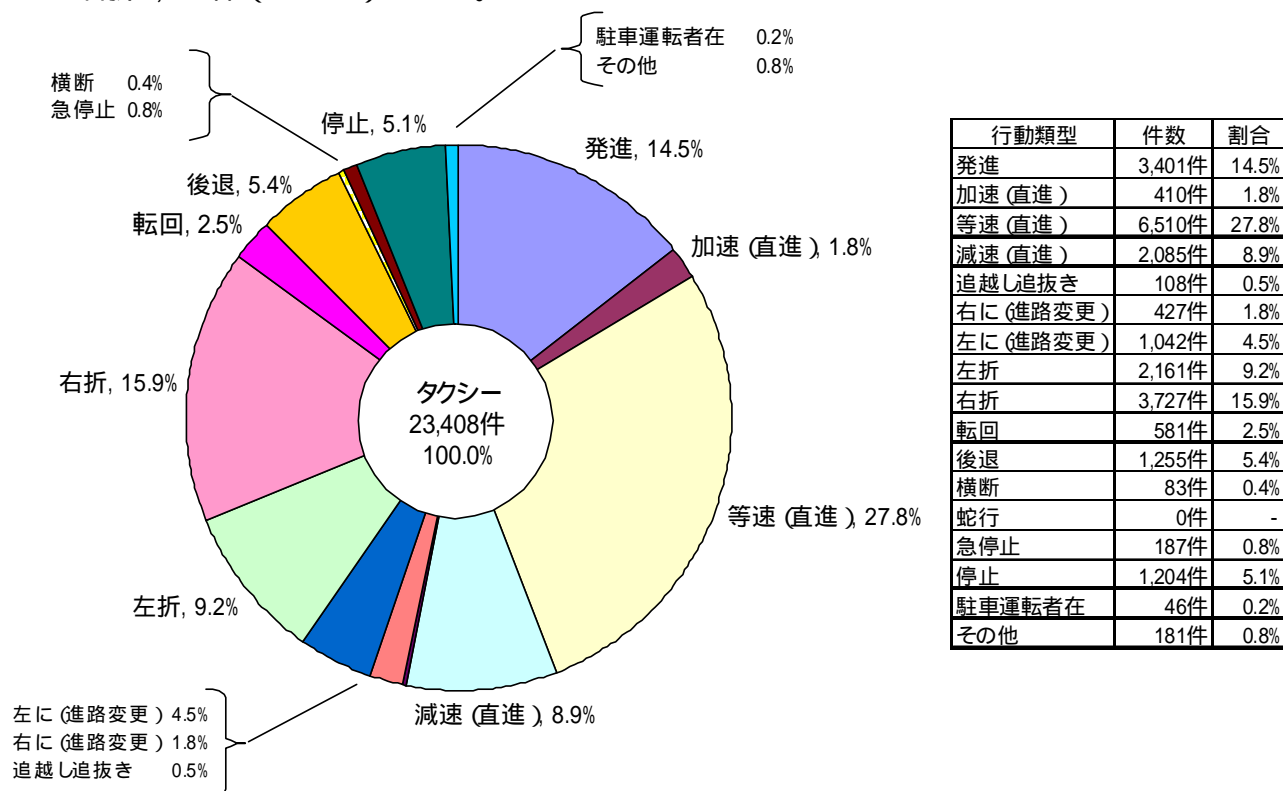


図 42 タクシーの行動類型別事故件数の割合 (平成 21 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 4 ) タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合 (平成 21 年)

タクシーの行動類型別死亡事故件数は、等速 (直進) 27件 (67.5%) が最も多く、次いで右折6件 (15.0%) である。

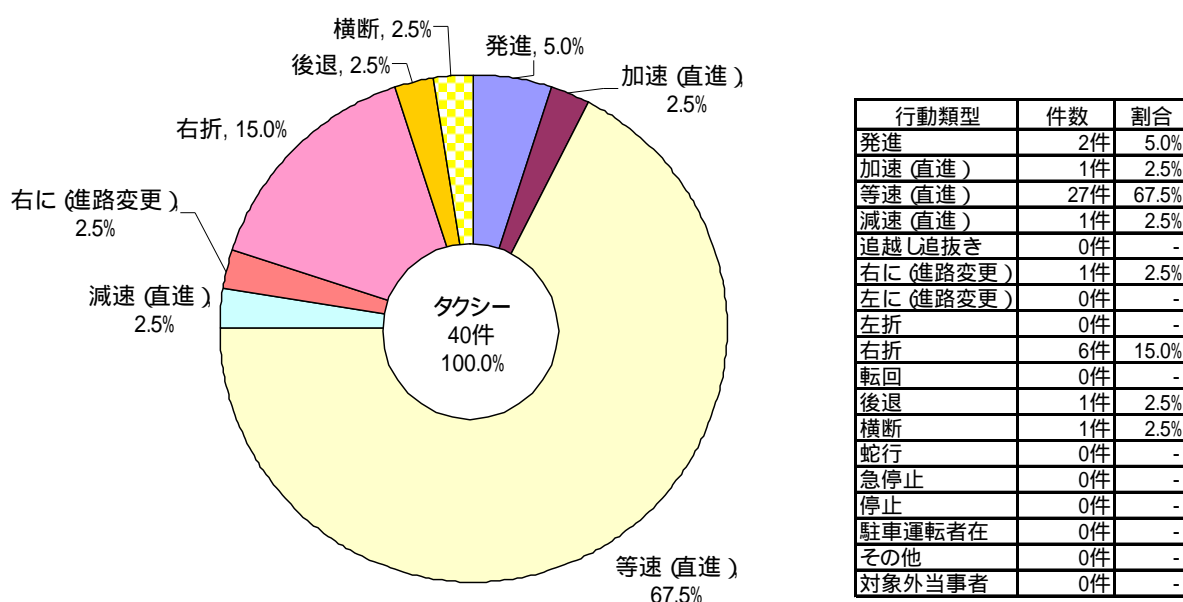


図 43 タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合 (平成 21 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「交通事故統計年報」



(5) タクシーの事故類型別事故件数の割合

平成 21 年のタクシーの事故は、他車との事故が 19,039 件で約 8 割を占めており、そのうち出会い頭衝突が 5,710 件と最も多く発生している。

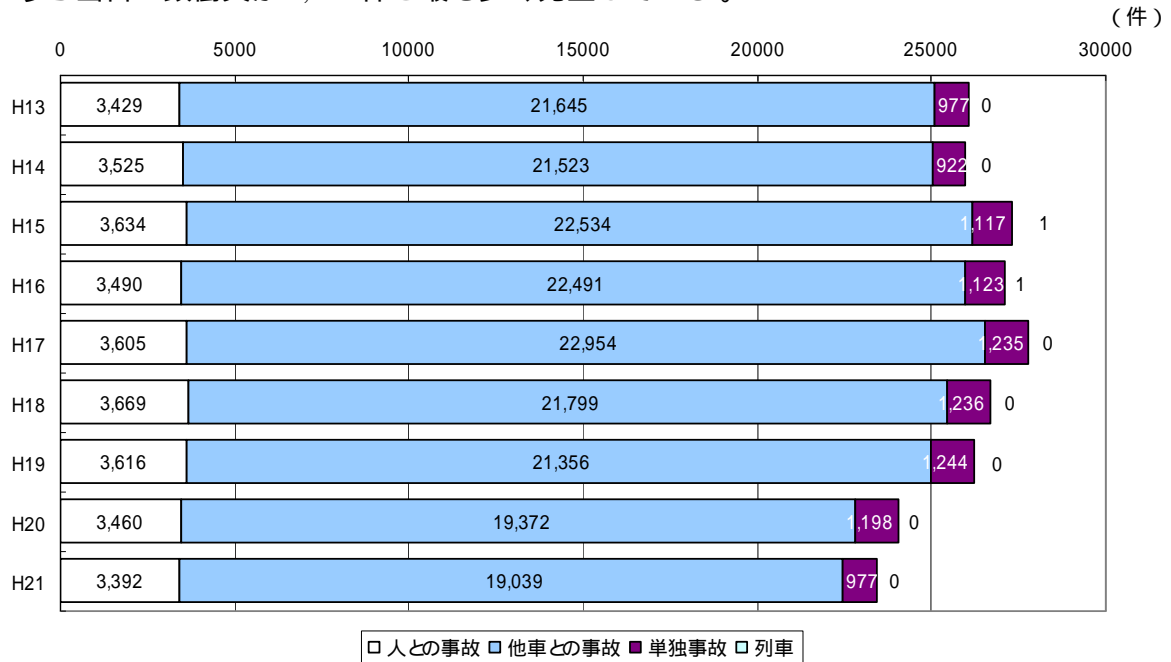


図 44 タクシーの事故類型別事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

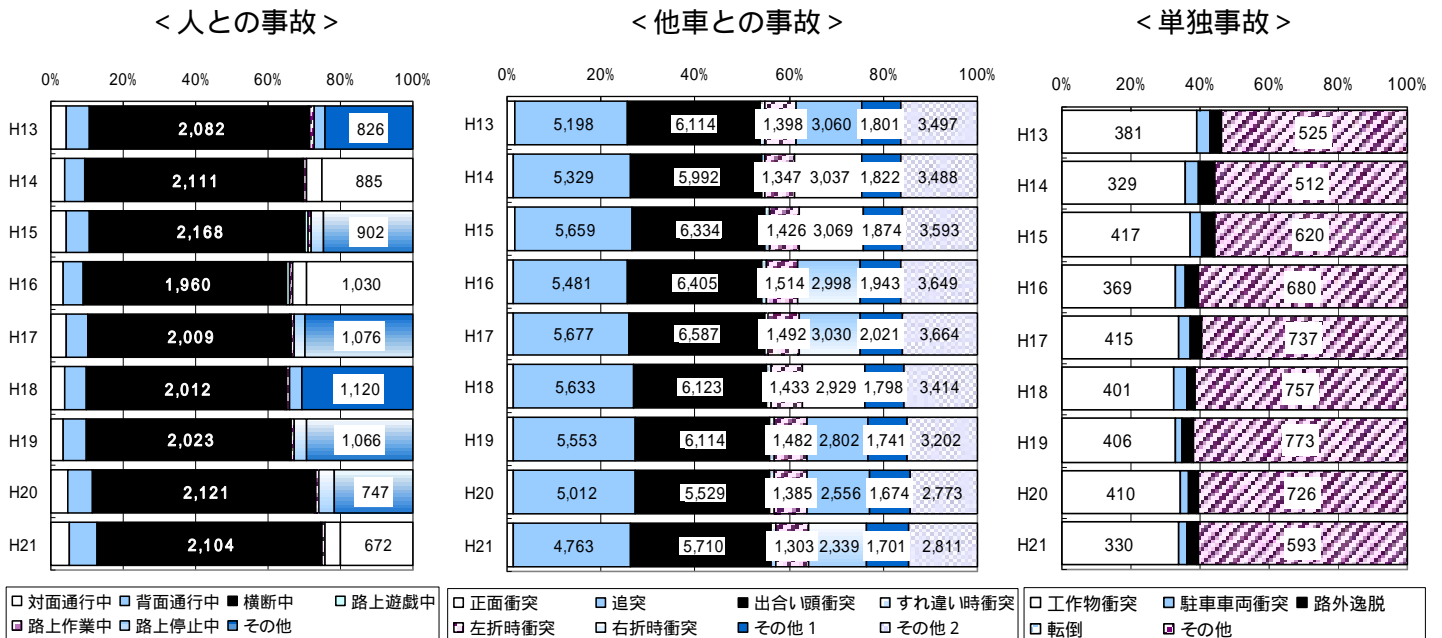


図 45 タクシーの事故類型別事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合

平成21年のタクシーの死亡事故は、他車との事故が28件で70%を占めており、そのうち横断中の事故が14件と最も多く発生している。

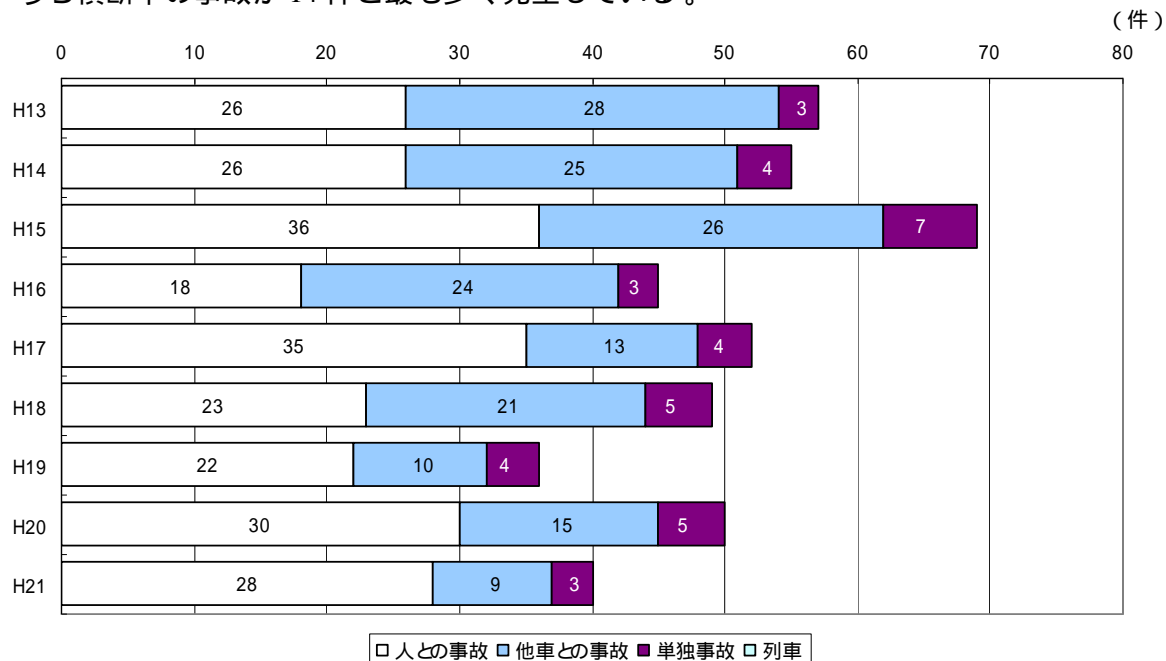


図46 タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

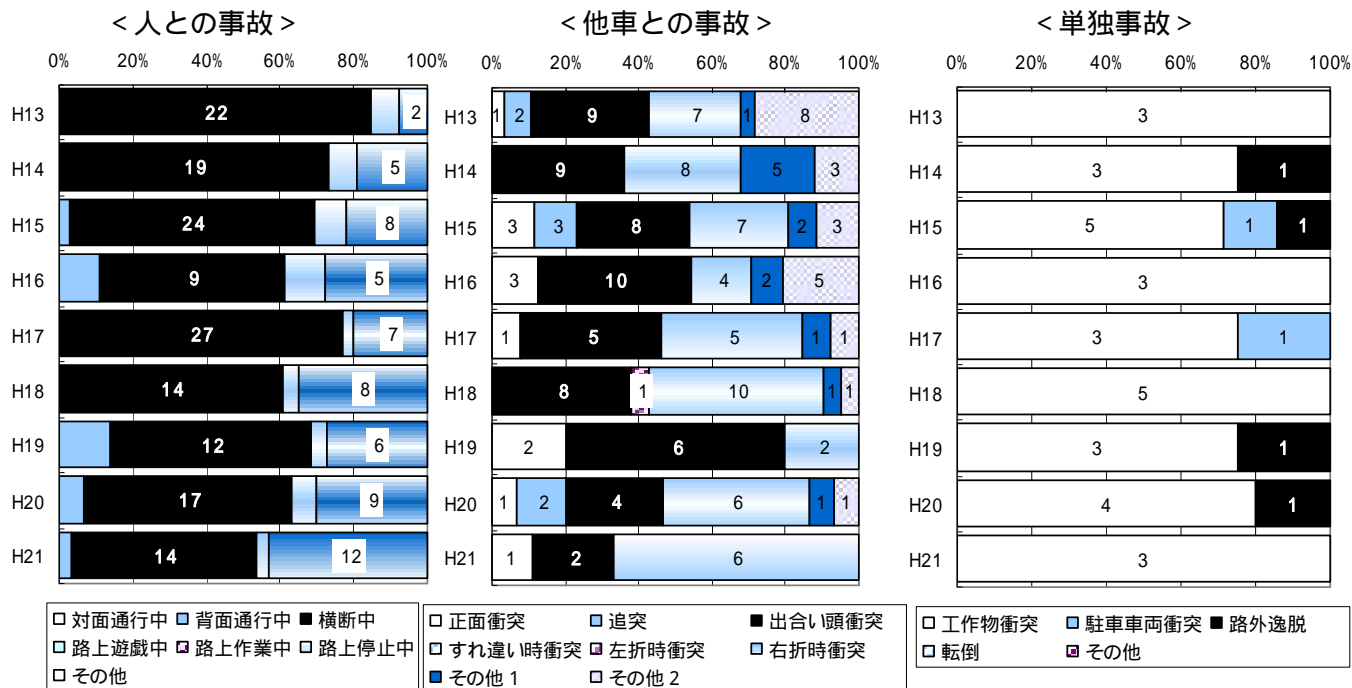


図47 タクシーの事故類型別死亡事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 7 ) タクシーの法令違反別の事故件数の割合 (平成 21 年)

法令違反別件数をみると、交通事故全体では「安全不確認」が 9,965 件 (42.6%) と最も多く、次いで「脇見運転」は 10.6%、「動静不注視」は 8.5%、「交差点安全進行」は 8.5% と続く。

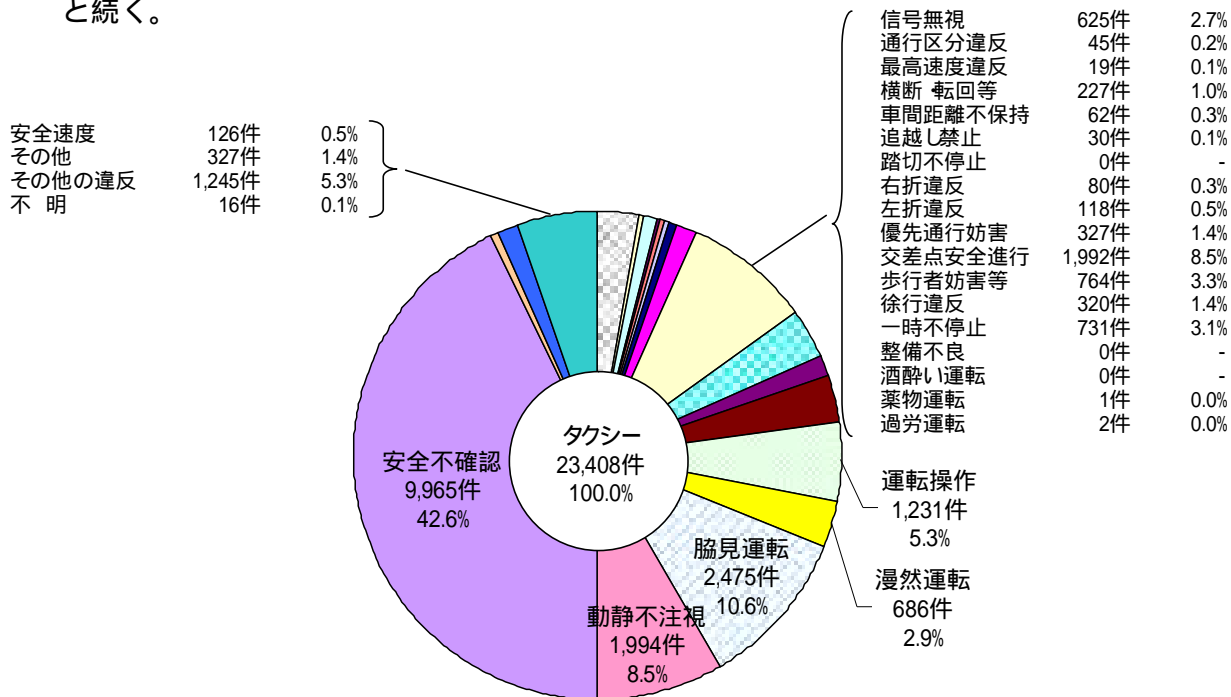


図 48 タクシーの法令違反別事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 8 ) タクシーの法令違反別の死亡事故件数の割合 (平成 21 年)

法令違反別死亡事故件数をみると、「安全不確認」が 11 件 (27.5%) と最も多く、次いで「脇見運転」は 25.0%、「漫然運転」は 22.5% と続く。

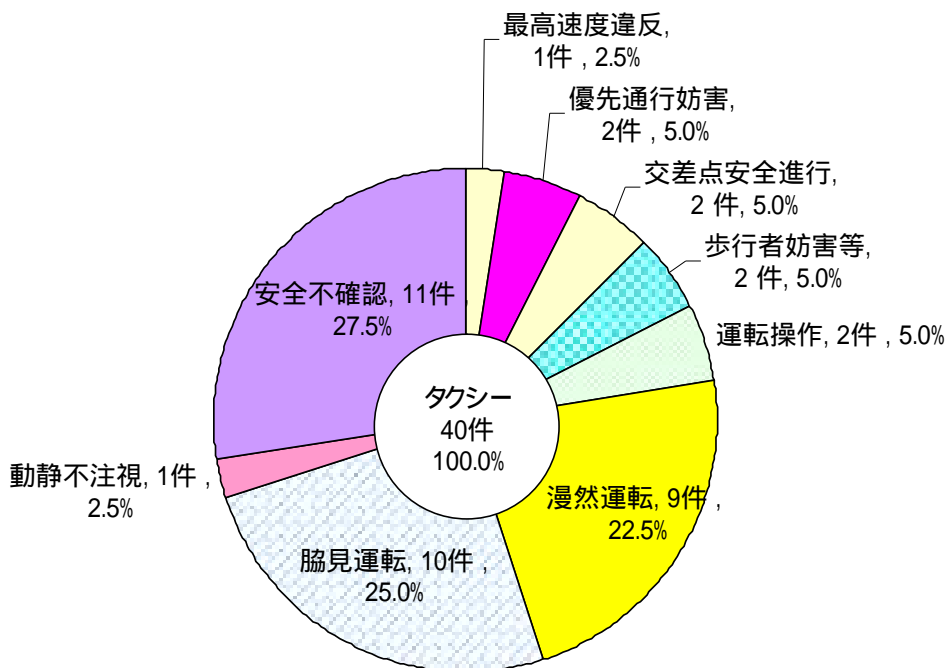


図 49 タクシーの法令違反別死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 9 ) タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数 ( 空車キロ、実車キロ )

タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数 ( 空車キロ、実車キロ ) は、空車時が実車時に比べて約 3 倍発生しており、平成 21 年は 1 億キロあたり 251 件である。

( 空車時事故件数/億キロ )

( 実車時事故件数/億キロ )

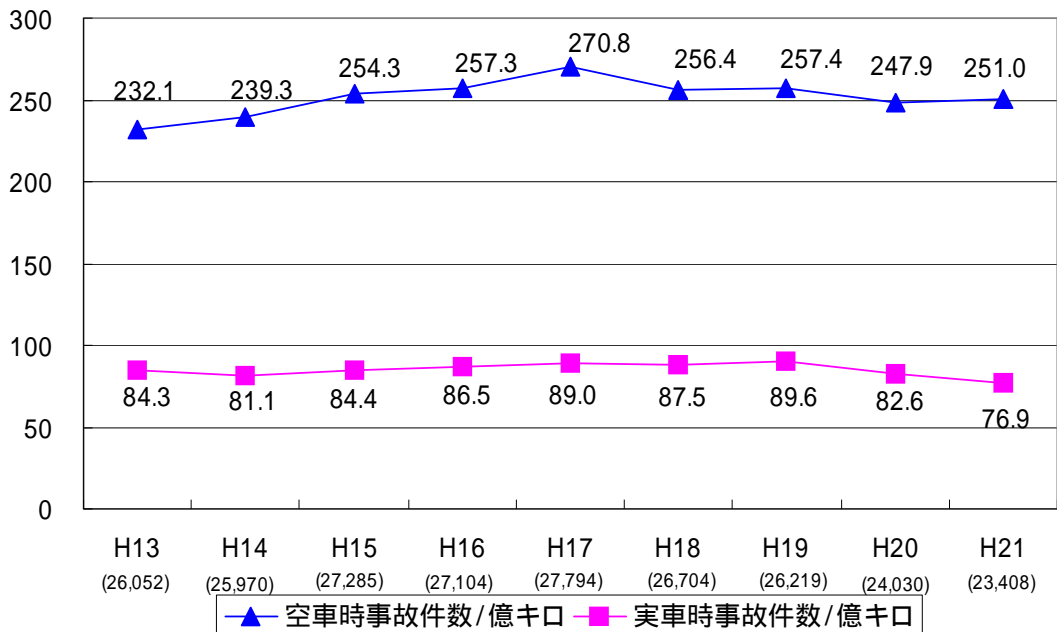


図 50 タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
国土交通省「自動車輸送統計調査」

(10) タクシーの事故の相手方の割合

実車時は、空車時に比べて単独の事故が圧倒的に多い。

空車時は、相手方が歩行者、自転車、原付（一種）及び二輪車となる事故は、平成 21 年では 66.4%を占め、実車時の 45.2%に比べて比較的多くなっている。

一方、空車時は、相手方が乗用車となる事故は、平成 21 年では 28.4%を占め、実車時の 30.9%に比べて比較的少なくなっている。

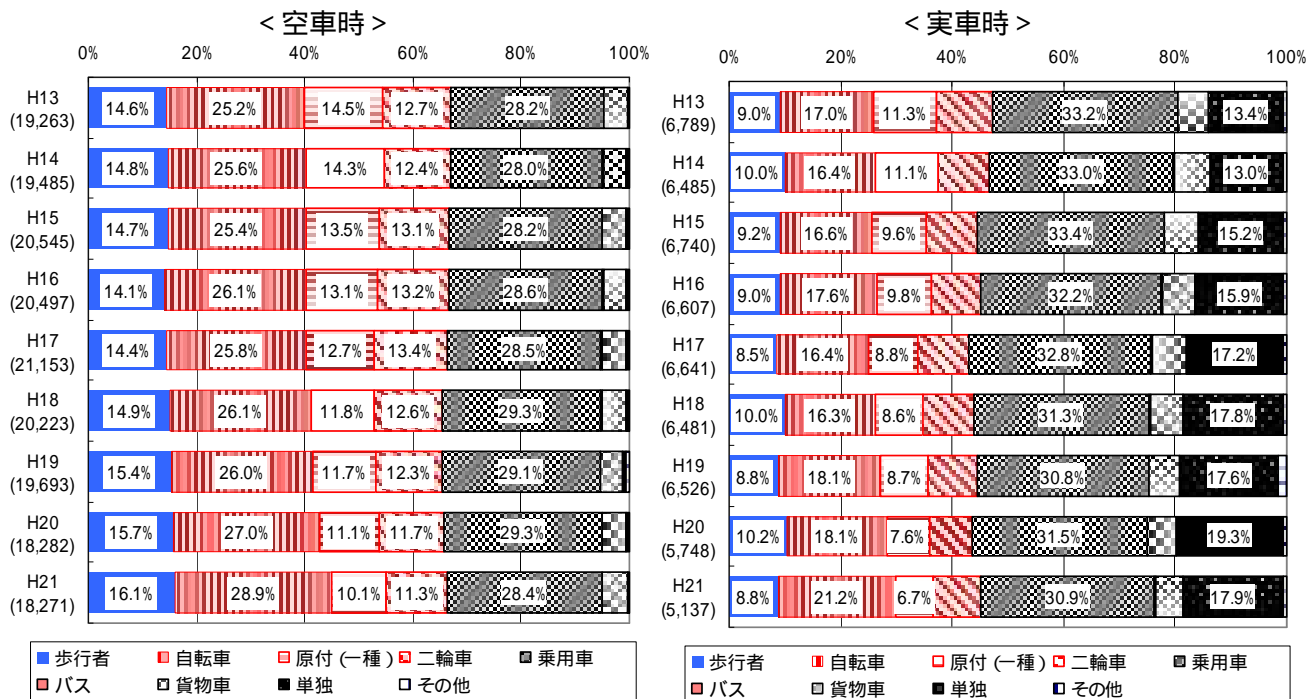


図 51 タクシーの事故の相手方の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 4.トラックの事故

### (1)トラックの事故件数、死亡事故件数の推移

平成21年の事故件数は24,992件(対前年比14.3%減)、トラックによる事故件数、死亡、重傷事故件数は近年減少しており、死亡事故件数は393件となっている。

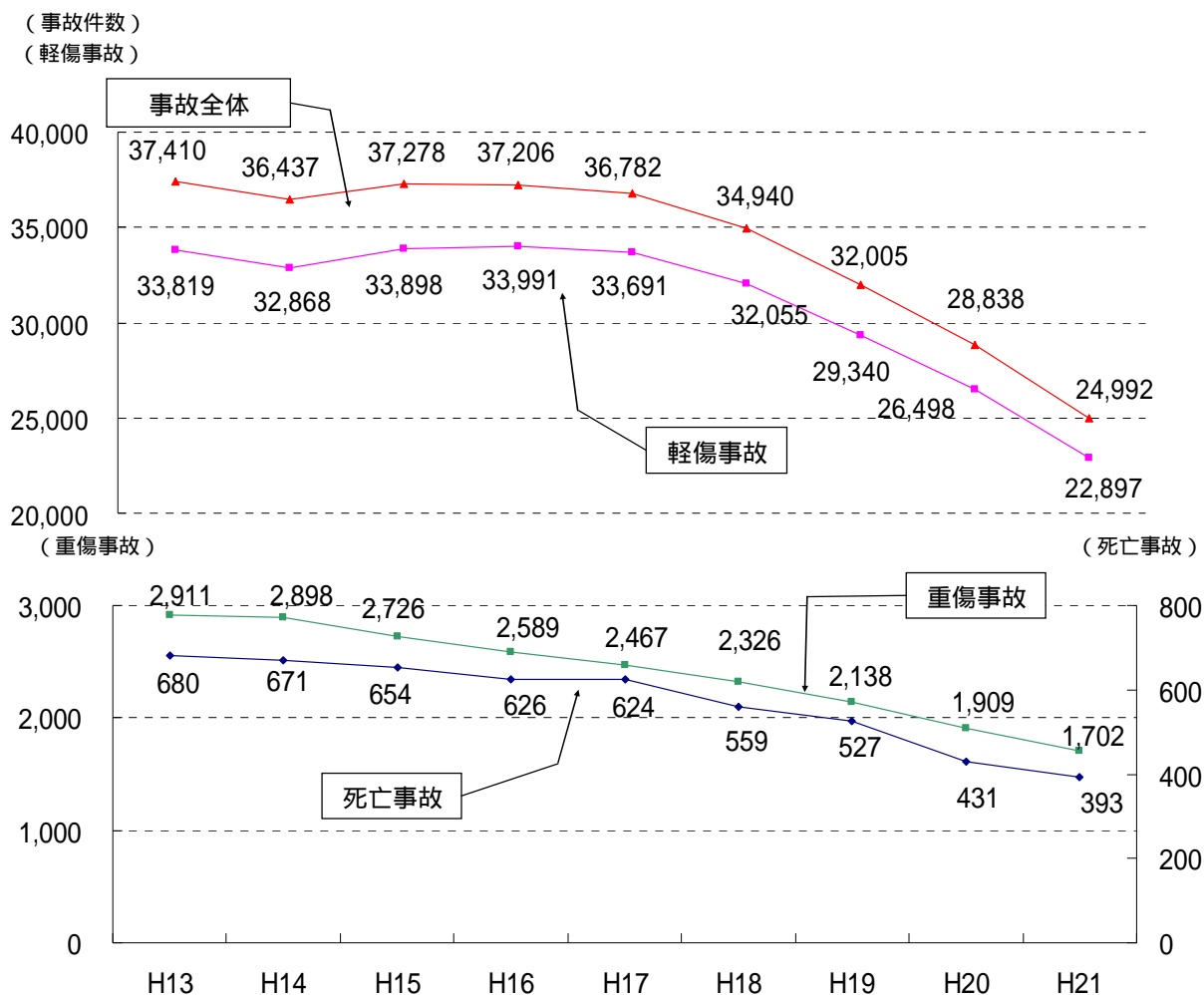


図 52 トラックの全事故及び死亡事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 24 トラックの事故件数の推移

年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	事故全体
H13	680	2,911	33,819	37,410
H14	671	2,898	32,868	36,437
H15	654	2,726	33,898	37,278
H16	626	2,589	33,991	37,206
H17	624	2,467	33,691	36,782
H18	559	2,326	32,055	34,940
H19	527	2,138	29,340	32,005
H20	431	1,909	26,498	28,838
H21	393	1,702	22,897	24,992

(2) トラック事故の死傷者数の推移

トラックの事故による死者、重傷者数は近年減少傾向にあり、平成 21 年の死者数は 410 人、重傷者数は 1,791 人となっている。

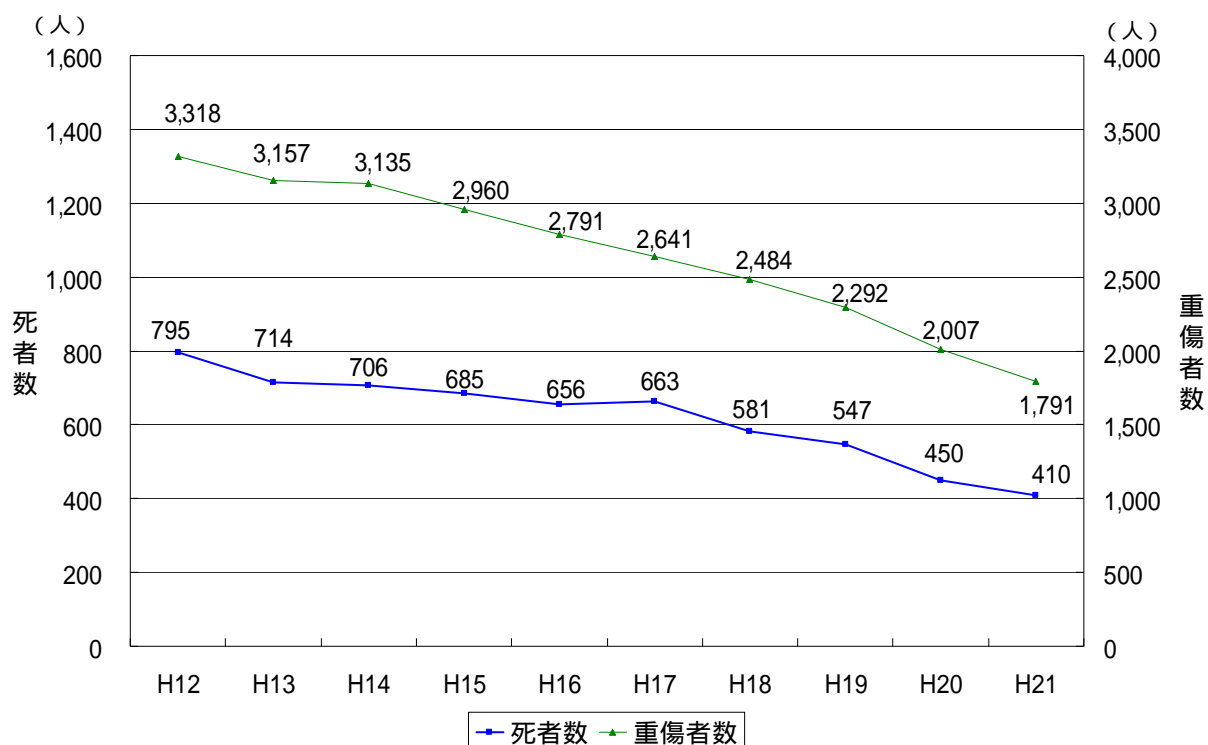


図 53 トラック事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 25 トラック事故の死傷者数の推移

区分 年	死者数 (人)	重傷者数 (人)	軽傷者数 (人)	死傷者合計 (人)
H12	795	3,318	45,253	49,366
H13	714	3,157	46,188	50,059
H14	706	3,135	44,973	48,814
H15	685	2,960	46,287	49,932
H16	656	2,791	46,244	49,691
H17	663	2,641	45,513	48,817
H18	581	2,484	43,175	46,240
H19	547	2,292	39,418	42,257
H20	450	2,007	35,049	37,506
H21	410	1,791	30,226	32,427

( 3 ) トラックの行動類型別事故件数の割合 (平成 21 年)

トラックの行動類型別事故件数、等速 (直進) 11,708件 (46.8%)、最も多く、次いで  
発進2,652件 (10.6%) と続いている。

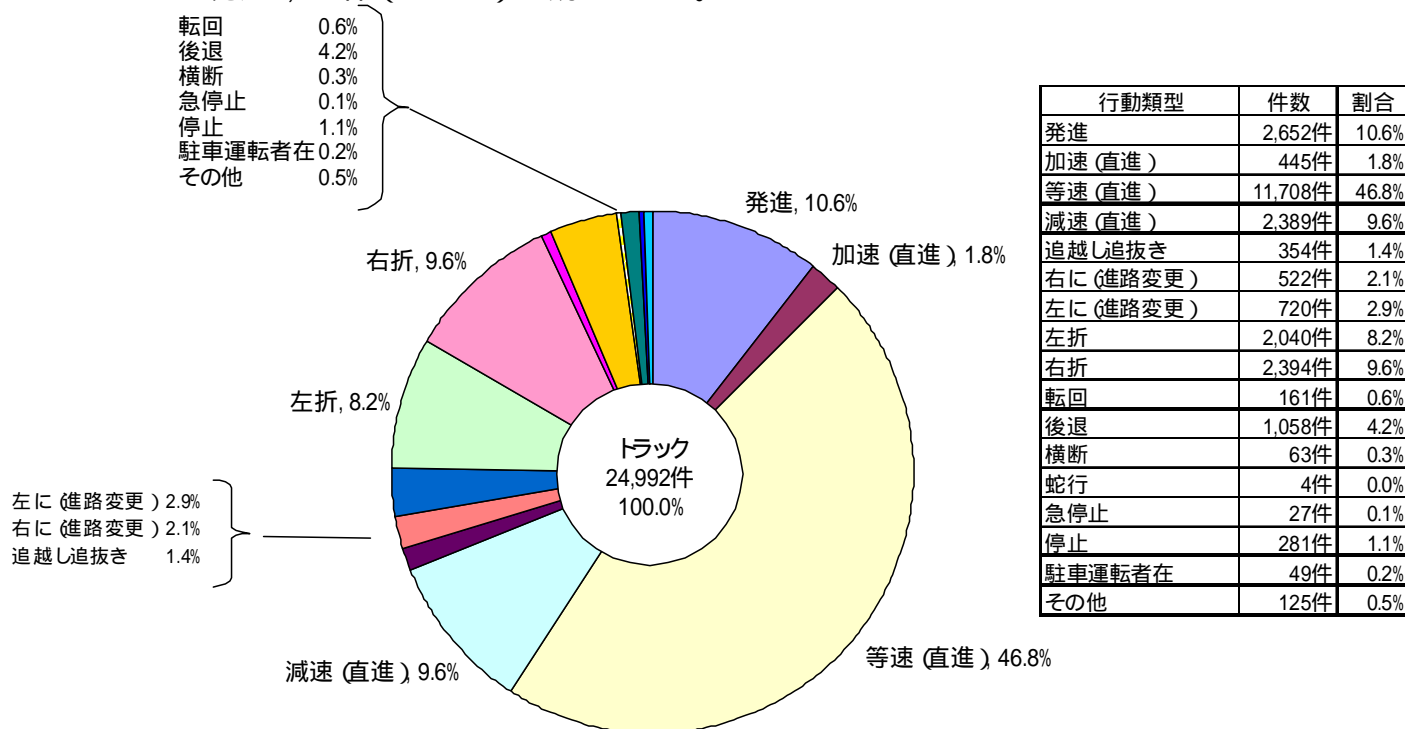


図 54 トラックの行動類型別事故件数の割合 (平成 21 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 4 ) トラックの行動類型別死亡事故件数の割合 (平成 21 年)

トラックの行動類型別死亡事故件数、等速 (直進) 253件 (64.4%)、右折56件 (14.2%)、  
左折30件 (7.6%) と続いている。

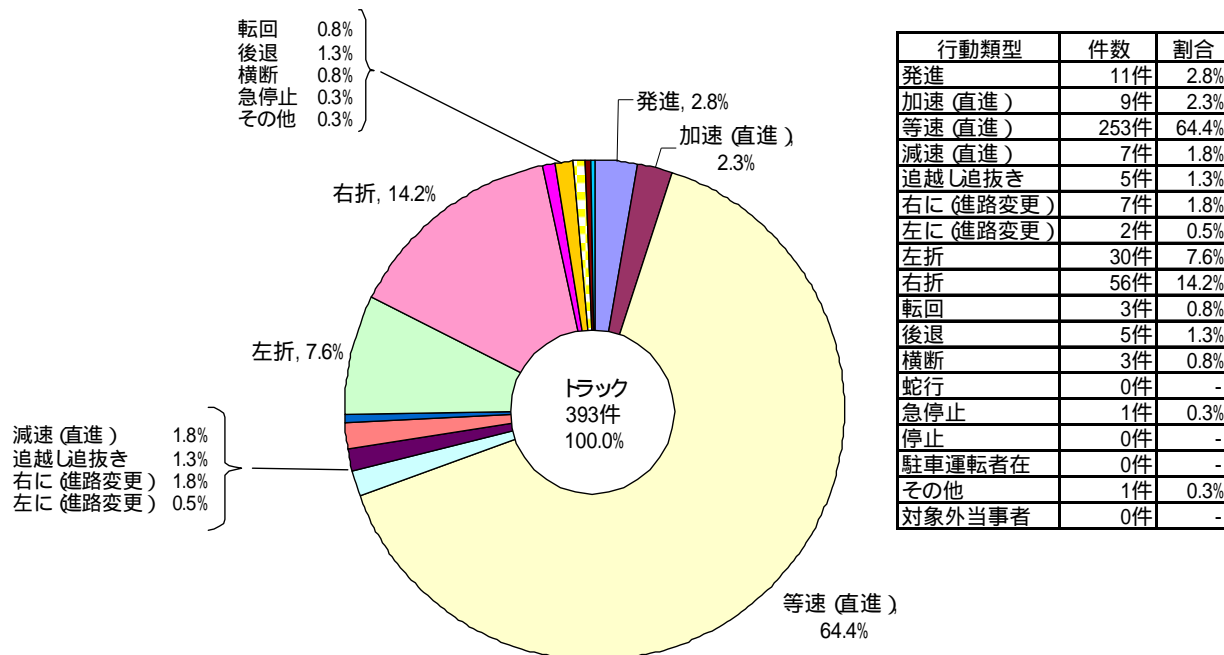


図 55 トラックの行動類型別死亡事故件数の割合 (平成 21 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「交通事故統計年報」



(5) トラックの事故類型別事故件数の割合

トラックの事故は、他車との事故が大半を占めている。

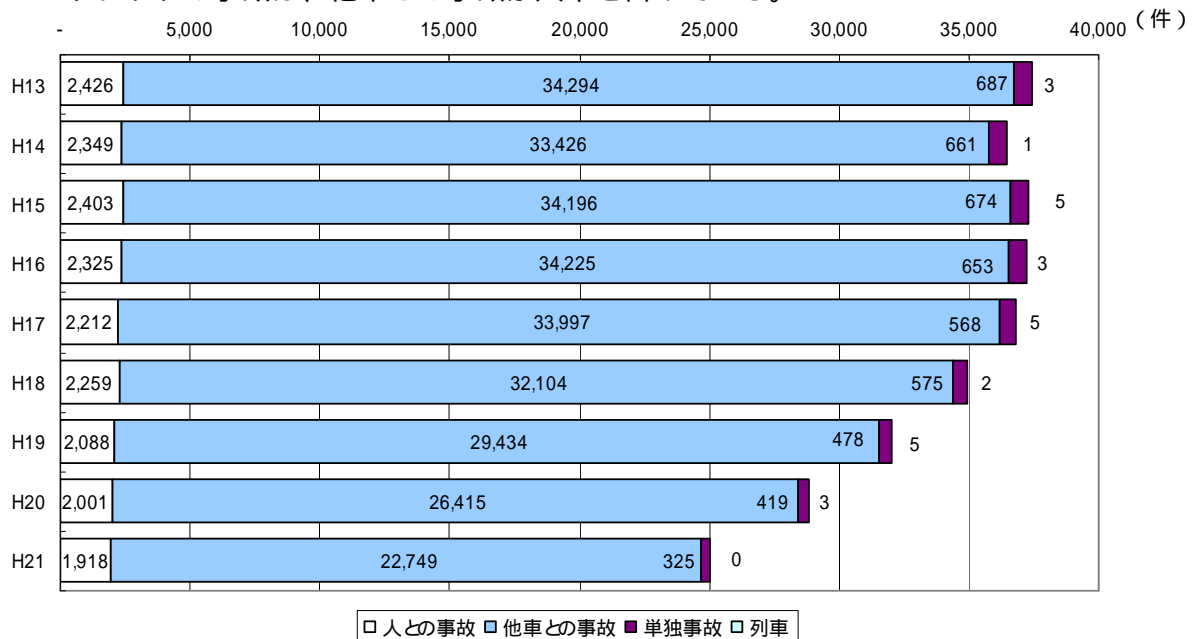


図 56 トラックの事故類型別事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

平成 21 年では、人との事故は横断中が約 63.0%、他車との事故は追突が約 50.1%、出会い頭衝突が約 16.2%、単独事故は工作物衝突が約 57.8%、駐車車両衝突が約 19.7%を占めている。

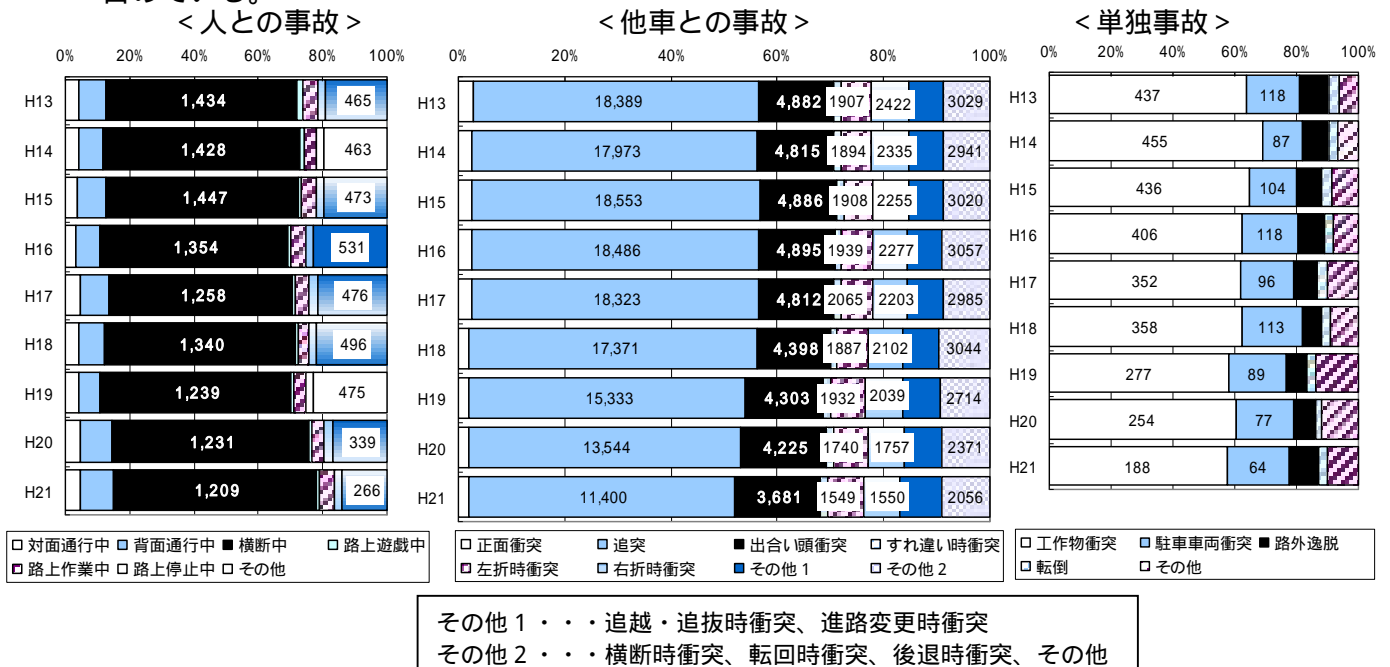


図 57 トラックの事故類型別事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) トラックの事故類型別死亡事故件数の割合

トラックの死亡事故は、他車との事故が半数以上を占めており、内訳をみると、追突が最も多い。

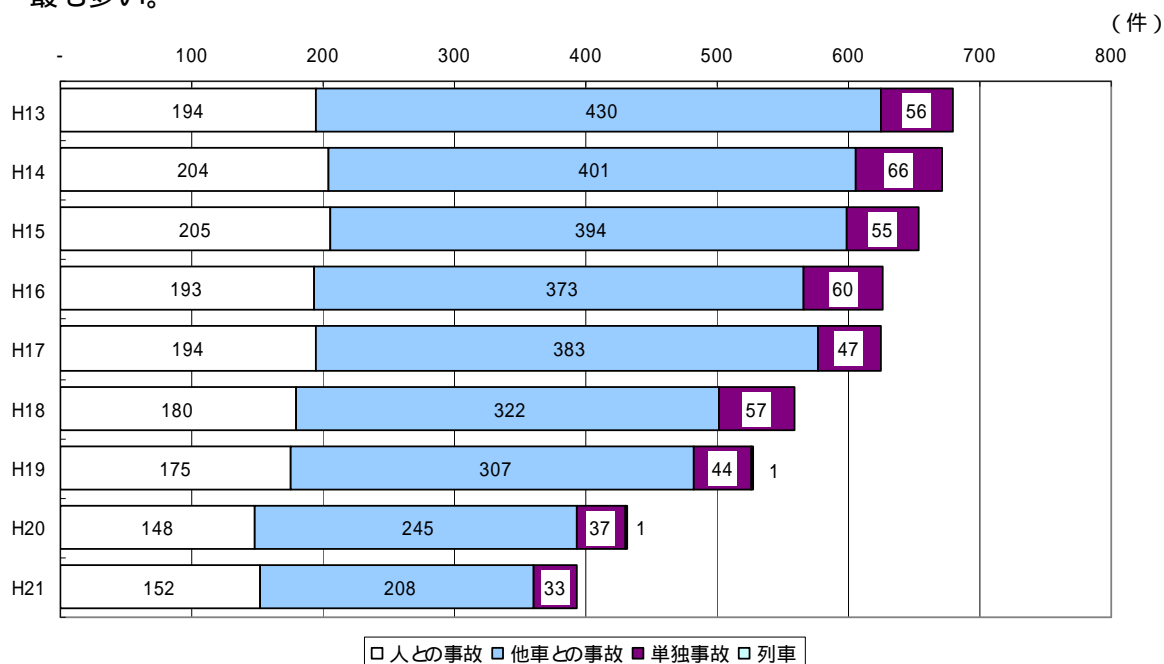


図 58 トラックの事故類型別死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

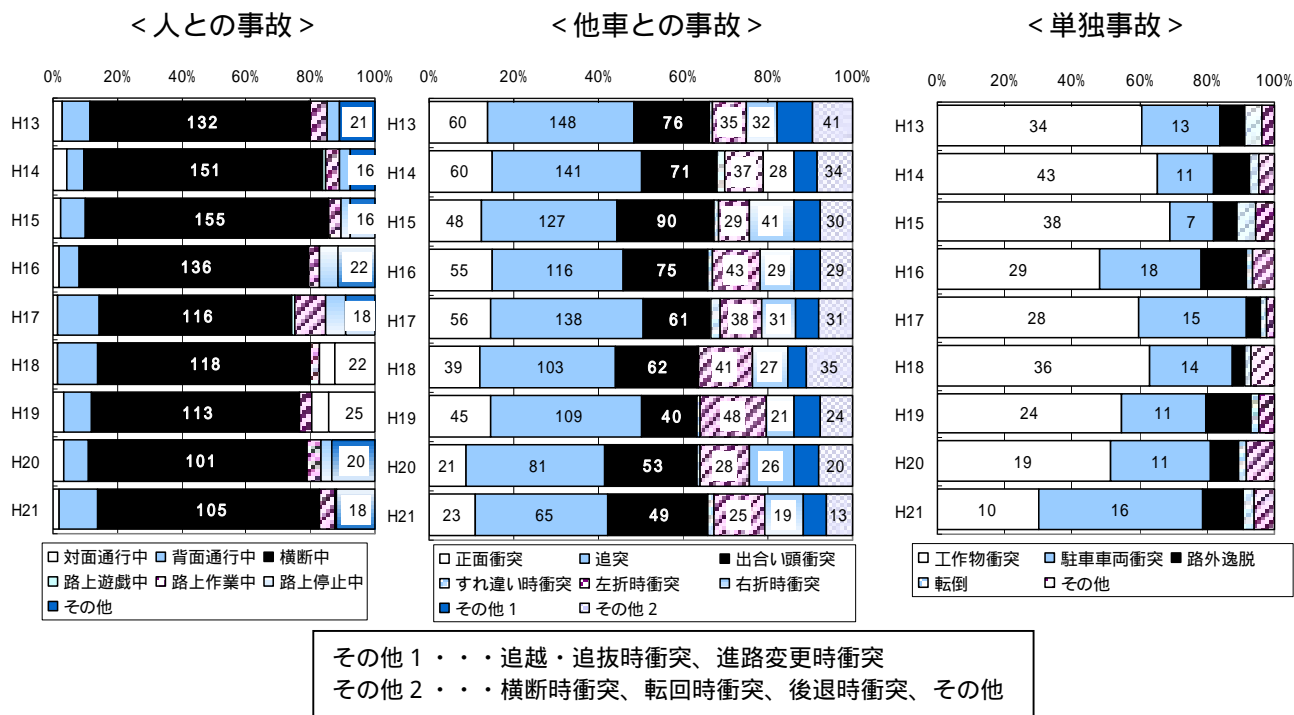


図 59 トラックの事故類型別死亡事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) トラックの法令違反別の事故件数の割合 (平成21年)

トラックの事故を道路交通法における違反項目別に見ると、安全不確認6,946件

(27.8%)、脇見運転5,313件(21.3%)、動静不注視3,849件(15.4%)、漫然運転2,006件(8.0%)と続いている。

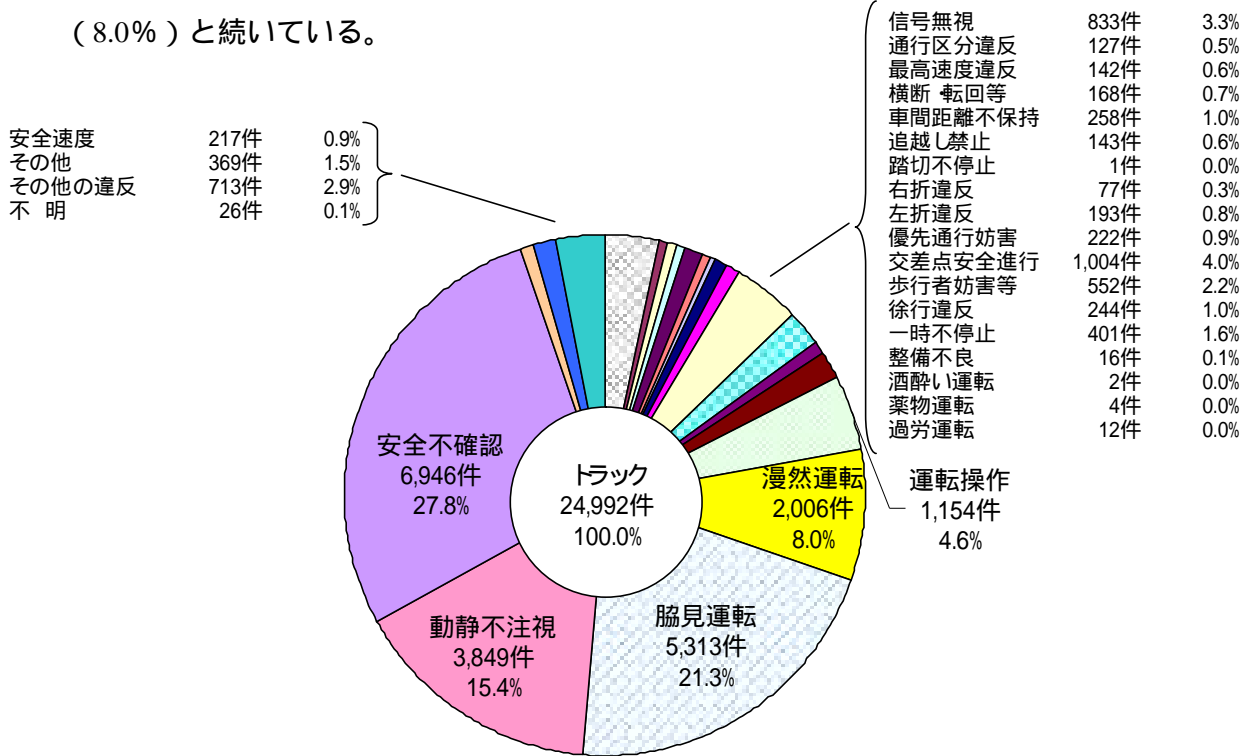


図 60 トラックの法令違反別の事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合 (平成21年)

トラックの死亡事故を道路交通法における違反項目別に見ると、漫然運転72件

(18.3%)、脇見運転59件(15.0%)、安全不確認54件(13.7%)と続いている。

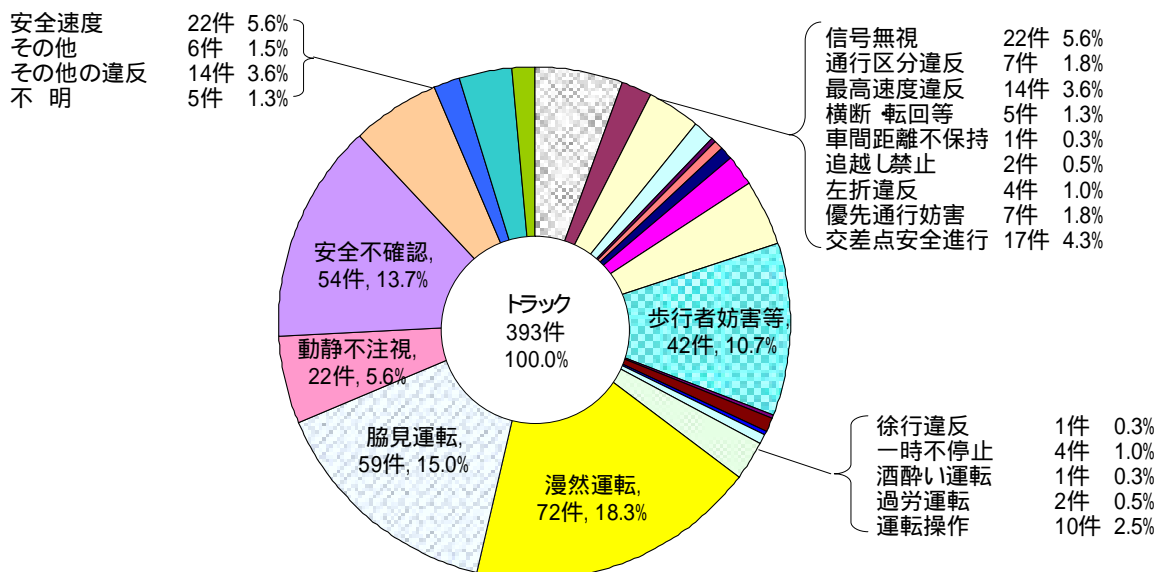


図 61 トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 9 )トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

平成 21 年のトラックの高速道路における死亡・重傷事故は、近年減少傾向にあるが、依然として、死亡事故は 51 件、重傷事故は 120 件発生している。

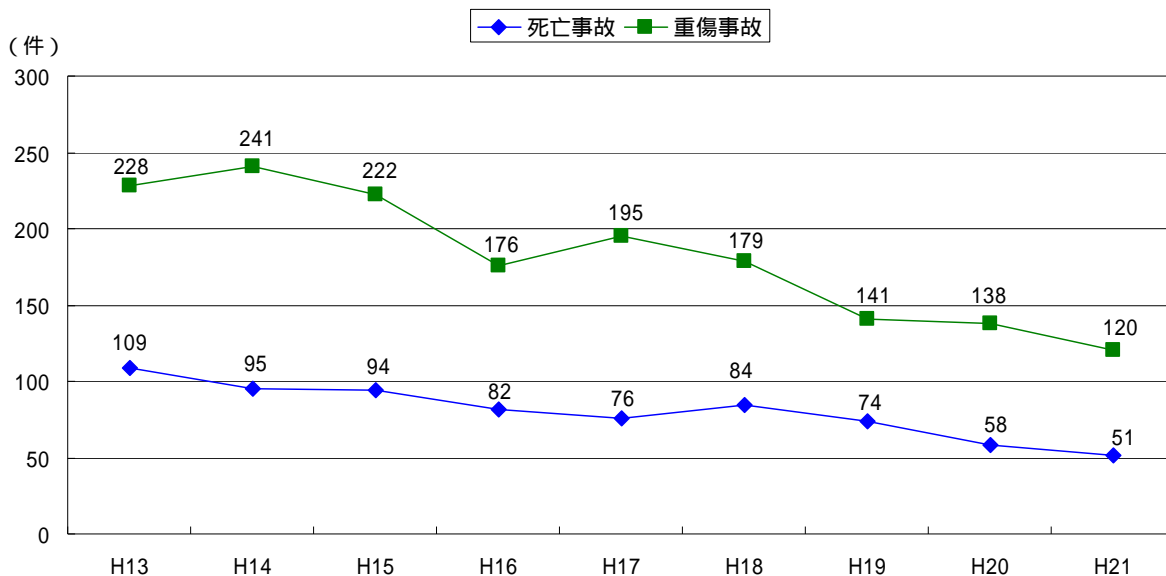


図 62 トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) トラックの発生時間帯別危険認知速度別追突事故件数(平成21年)

トラックの追突事故における時間帯別危険認知速度をみると、0時～6時の深夜・早朝の危険認知速度は高く、交通量が少なく、スピードを出して運転できる環境が要因ではないかと推察される。

表26 トラックの発生時間帯別危険認知速度別追突事故件数(平成21年)

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	19	24	34	212	335	405	303	308	210	94	50	21	2,015
20km/h以下	19	17	37	116	248	261	235	220	125	73	45	18	1,414
30km/h以下	31	23	47	164	239	272	259	216	135	82	37	32	1,537
40km/h以下	51	43	86	187	357	411	333	296	198	129	79	52	2,222
50km/h以下	67	84	82	195	263	329	335	272	155	108	68	80	2,038
60km/h以下	61	58	97	108	138	182	183	135	78	50	60	69	1,219
70km/h以下	35	18	35	32	37	44	54	38	26	18	19	15	371
80km/h以下	32	26	34	25	25	22	14	19	10	19	14	30	270
90km/h以下	33	42	38	18	7	6	6	5	5	5	10	18	193
100km/h以下	8	29	14	11	4	7	5	3	3	6	3	10	103
120km/h以下	4	1	0	2	0	1	0	0	1	0	1	3	13
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
合計	361	365	507	1,070	1,654	1,940	1,727	1,512	946	584	386	348	11,400

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表27 トラックの発生時間帯別危険認知速度別追突死亡事故件数(平成21年)

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30km/h以下	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
40km/h以下	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	3
50km/h以下	0	1	2	1	0	1	1	0	1	1	1	1	10
60km/h以下	4	3	6	1	0	0	1	0	0	0	0	2	17
70km/h以下	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	6
80km/h以下	3	1	2	2	1	0	0	2	0	0	1	1	13
90km/h以下	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
100km/h以下	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	5
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
合計	8	10	15	5	3	5	3	3	2	2	3	6	65

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

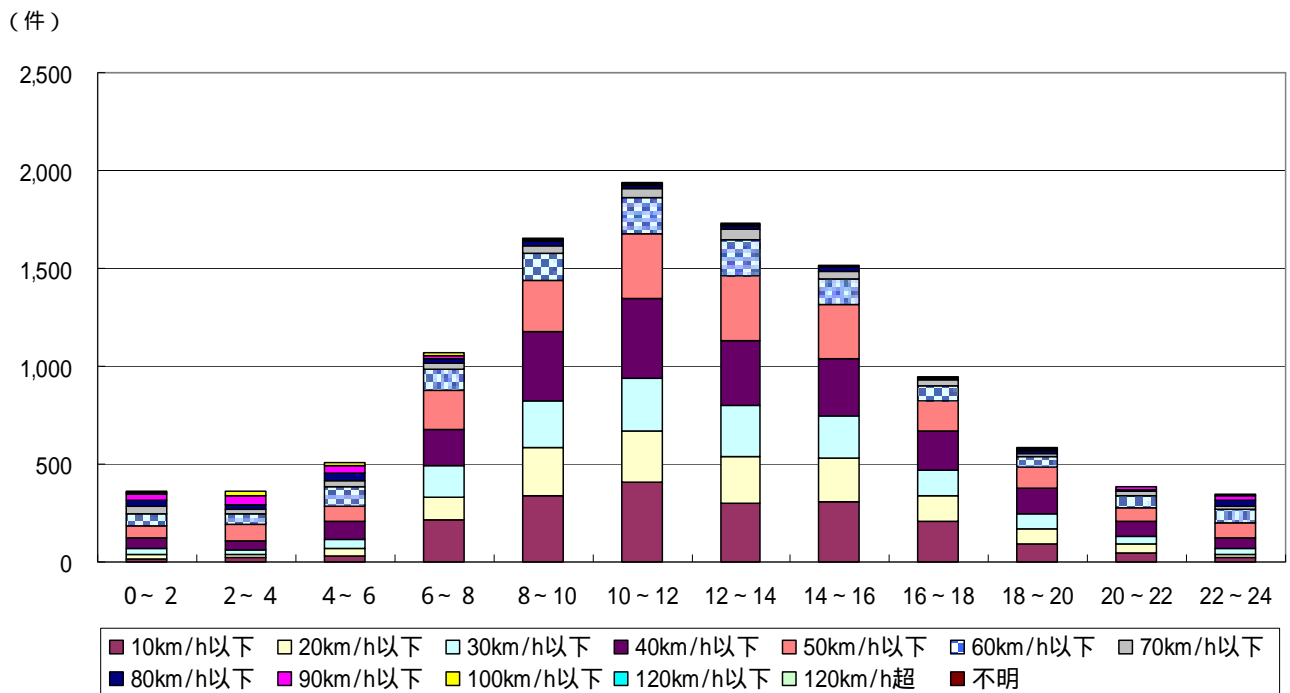


図 63 トラックの発生時間帯別危険認知速度別追突事故件数（平成 21 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

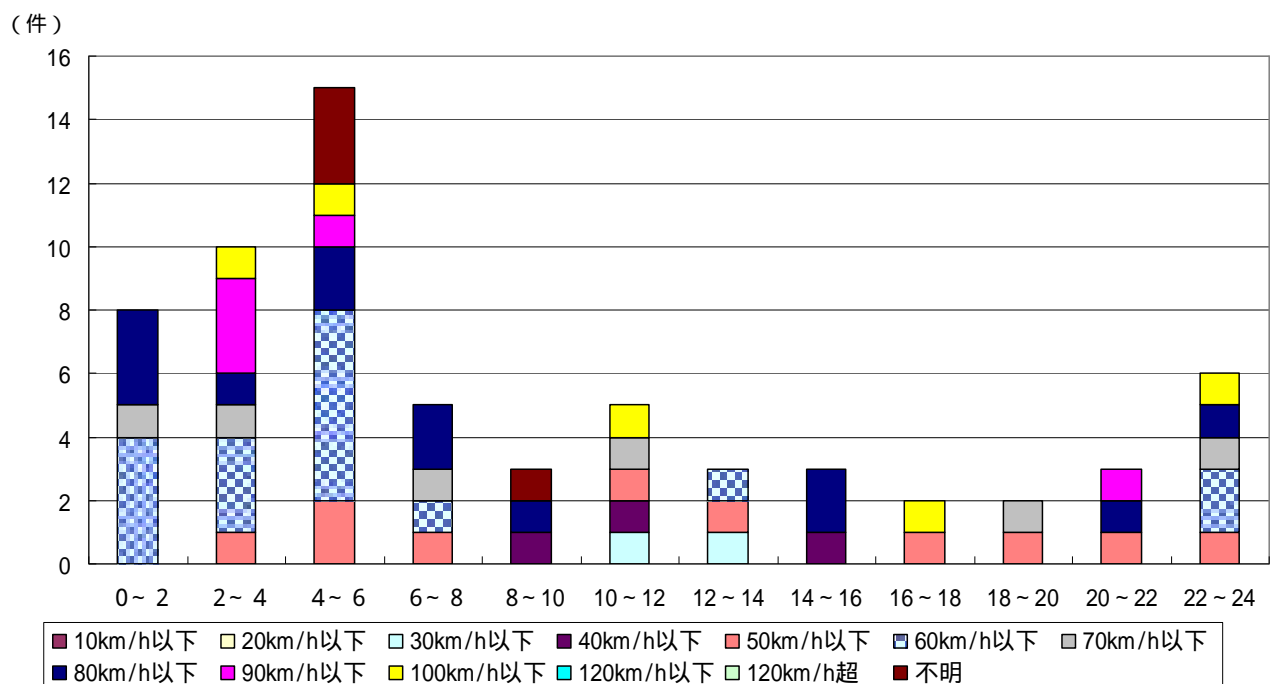


図 64 トラックの発生時間帯別危険認知速度別追突死亡事故件数（平成 21 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

トラックの追突事故における危険認知速度をみると、追突事故全体と比較して、追突死亡事故は、危険認知速度が高くなっている。

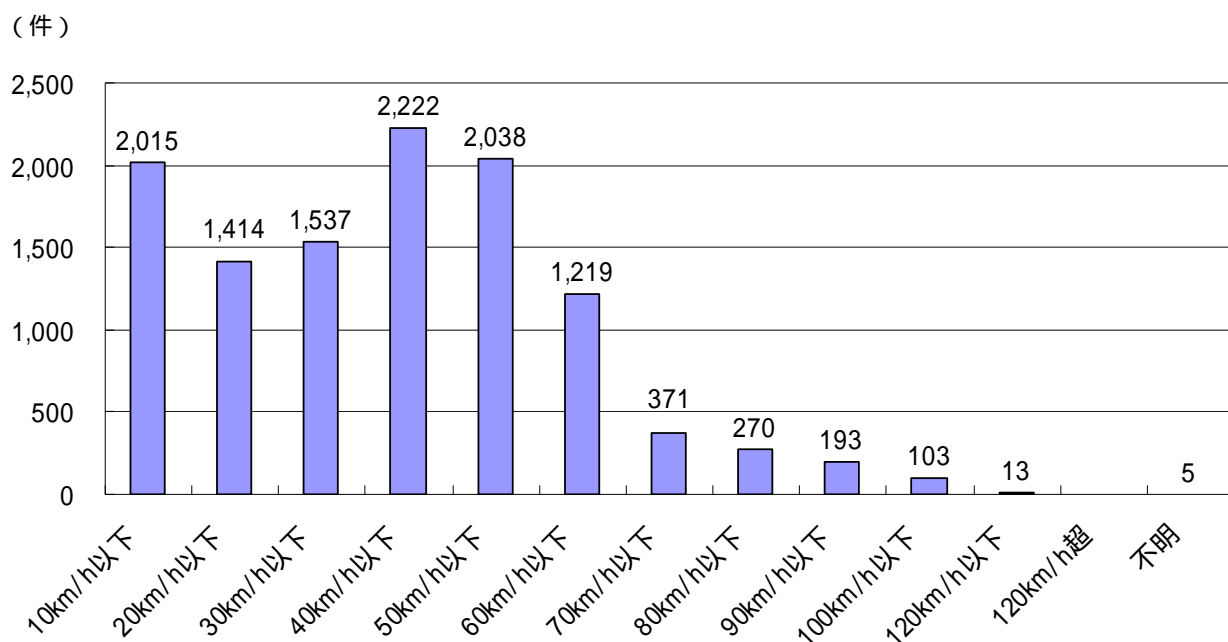


図 65 トラックの危険認知速度別の追突事故件数（平成 21 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

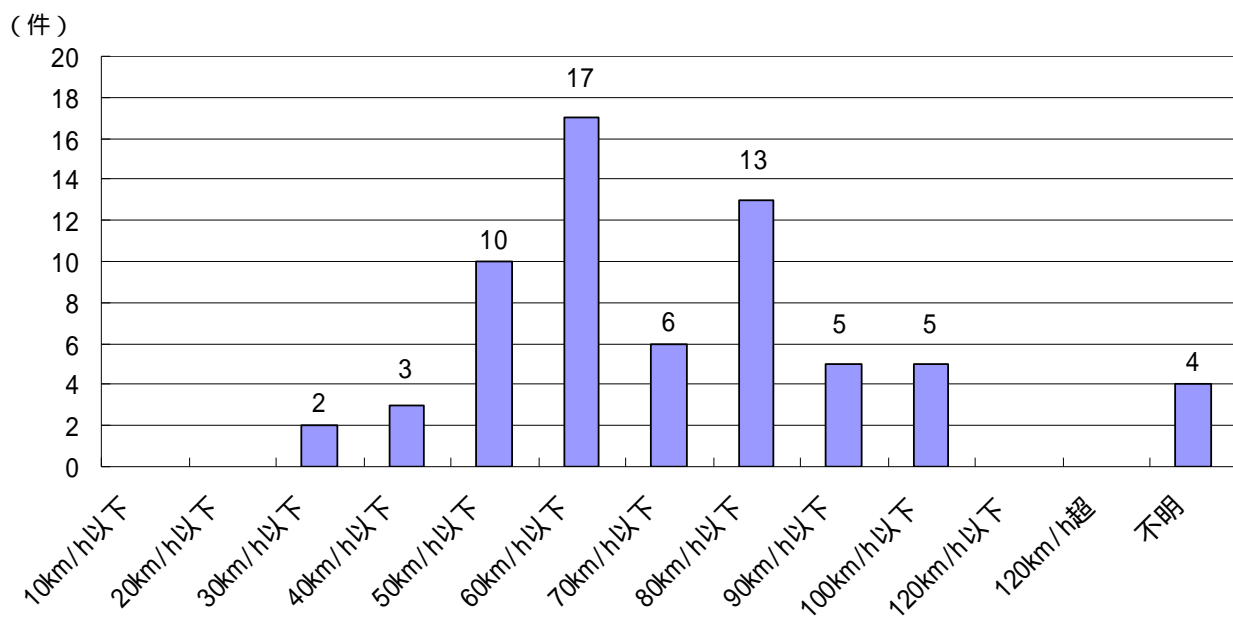


図 66 トラックの危険認知速度別の追突死亡事故件数（平成 21 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) トラックの車両総重量別の死亡・重傷事故件数の推移

トラックの事故における死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満の車両は、平成20年までは減少傾向にあったが、平成21年は前年に比べて横這いとなっている。

死亡事故

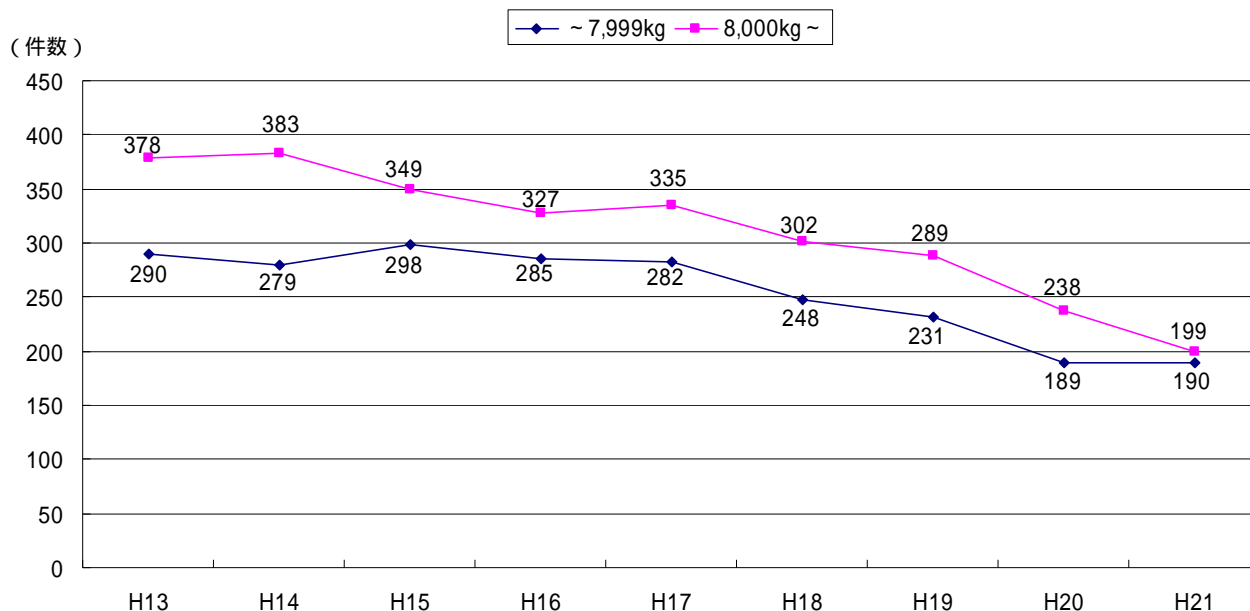


図 67 トラックの車両総重量別死亡事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 28 車両総重量別死亡事故件数

	死亡事故件数		合計
	~7,999kg	8,000kg~	
H13	290	378	668
H14	279	383	662
H15	298	349	647
H16	285	327	612
H17	282	335	617
H18	248	302	550
H19	231	289	520
H20	189	238	427
H21	190	199	389

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



## 重傷事故

トラックの事故における重傷事故件数の推移を車両総重量別にみると、死亡事故の場合と異なる。8トン未満の車両による重傷事故は、8トン以上の車両によるものと比較して多くなっている。

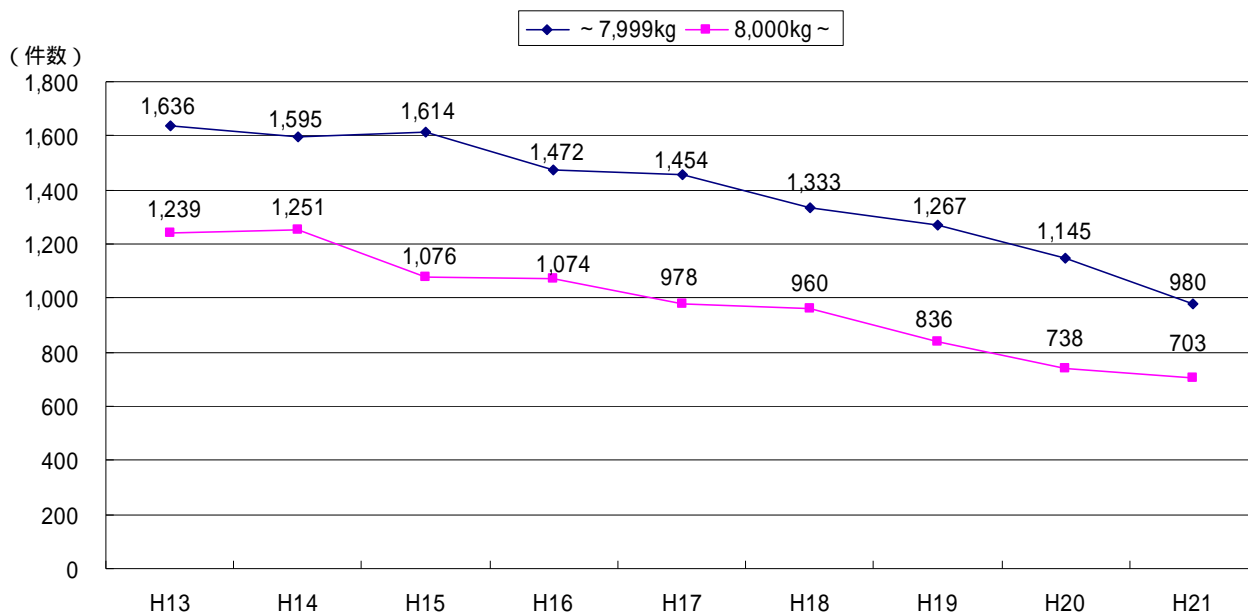


図 68 トラックの車両総重量別重傷事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 29 車両総重量別重傷事故件数

	重傷事故件数		
	~ 7,999kg	8,000kg ~	合計
H13	1,636	1,239	2,875
H14	1,595	1,251	2,846
H15	1,614	1,076	2,690
H16	1,472	1,074	2,546
H17	1,454	978	2,432
H18	1,333	960	2,293
H19	1,267	836	2,103
H20	1,145	738	1,883
H21	980	703	1,683

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

( 8 ) 2.5 t 以上 20 t 未満トラックの車両総重量別車両数あたりの死亡・重傷事故件数

死亡事故

平成 21 年の 2.5 t 以上 20 t 未満トラックの車両総重量別車両数あたりの死亡事故発生率は、7 ～ 8 トン未満が最も高い。

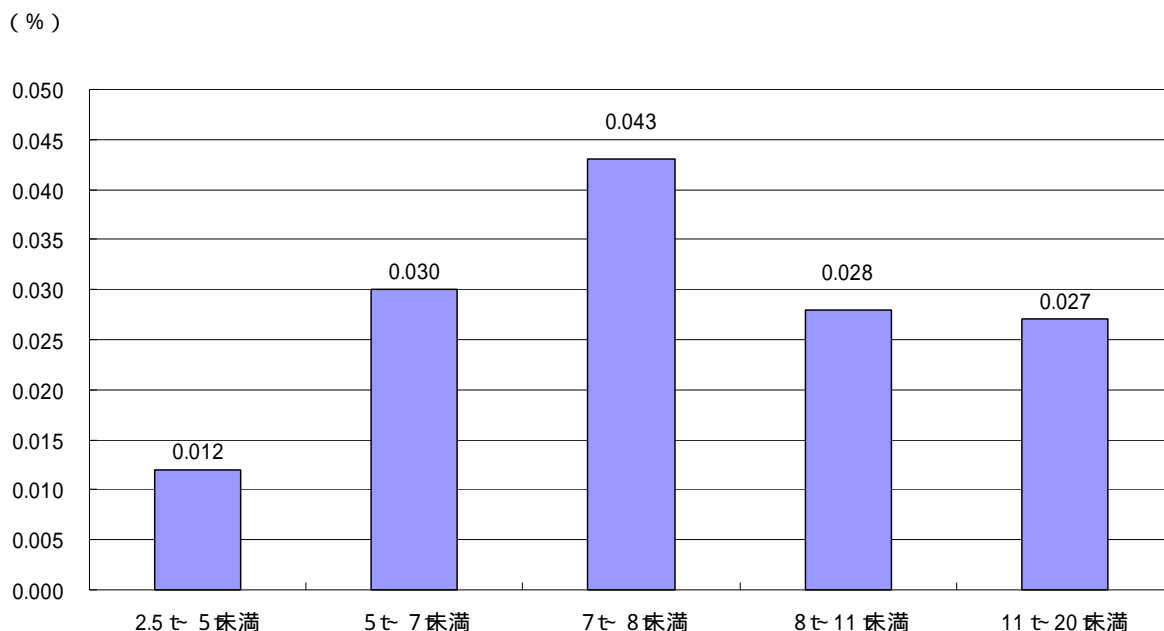


図 69 2.5 t 以上 20 t 未満トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数 (平成 21 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 30 2.5 t 以上 20 t 未満トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数 (平成 21 年)

	死亡事故件数	車両数(事業用)	発生率
2.5 t - 5 t 未満	16	132,872	0.012%
5 t - 7 t 未満	39	131,410	0.030%
7 t - 8 t 未満	107	247,288	0.043%
8 t - 11 t 未満	2	7,126	0.028%
11 t - 20 t 未満	40	149,029	0.027%

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

## 重傷事故

平成 21 年の 2.5 t 以上 20 t 未満トラックの車両総重量別車両数あたりの重傷事故発生率は、7 ～ 8 トン未満が最も多く、次いで 5 ～ 7 トン未満である。

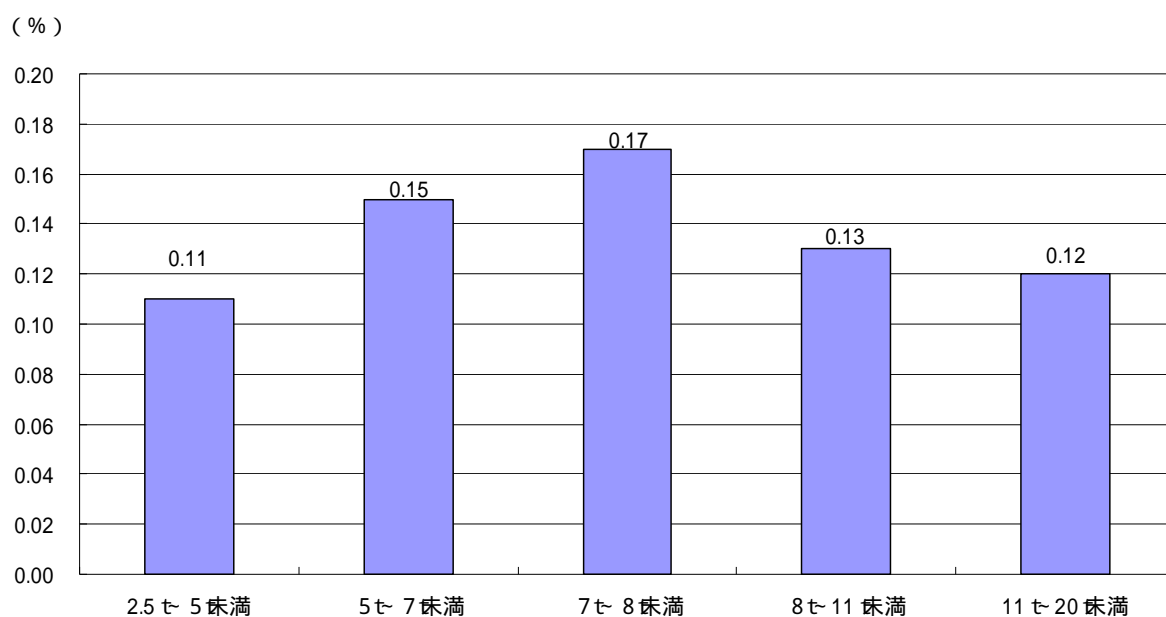


図 70 2.5 t 以上 20 t 未満トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数 (平成 21 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 31 2.5 t 以上 20 t 未満トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数 (平成 21 年)

	重傷事故件数	車両数(事業用)	発生率
2.5 t - 5 t 未満	144	132,872	0.11%
5 t - 7 t 未満	203	131,410	0.15%
7 t - 8 t 未満	418	247,288	0.17%
8 t - 11 t 未満	9	7,126	0.13%
11 t - 20 t 未満	176	149,029	0.12%

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

## 死亡及び重傷事故

平成 21 年の 2.5 t 以上 20 t 未満トラックの車両総重量別車両数あたりの死亡及び重傷事故発生率は、7 ～ 8 トン未満が最も高い。

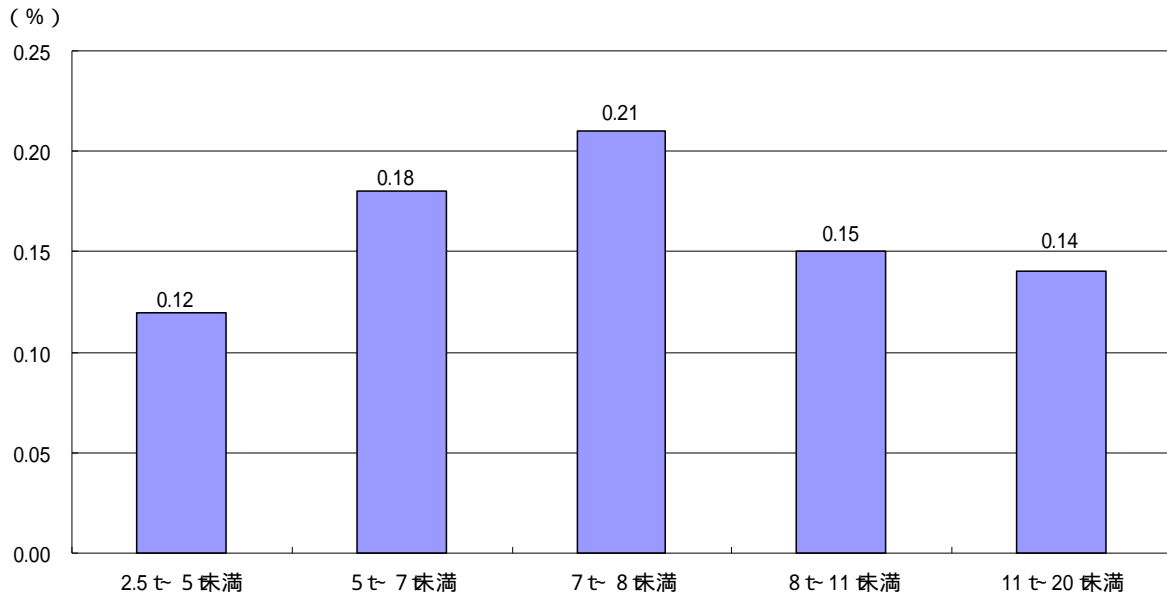


図 71 2.5 t 以上 20 t 未満トラックの車両総重量別車両数あたり死亡及び重傷事故件数 (平成 21 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 32 2.5 t 以上 20 t 未満トラックの車両総重量別車両数あたり死亡及び重傷事故件数 (平成 21 年)

	死亡及び重傷 事故件数	車両数(事業用)	発生率
2.5 t 以上 5 t 未満	160	132,872	0.12%
5 t 以上 7 t 未満	242	131,410	0.18%
7 t 以上 8 t 未満	525	247,288	0.21%
8 t 以上 11 t 未満	11	7,126	0.15%
11 t 以上 20 t 未満	216	149,029	0.14%

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」